

# 11. 管理データ様式

受注者は、施工管理（出来形管理、品質管理）の結果について、以下に示す（１）指定様式又は（２）自由様式を用いて提出しなければならない。なお、本記載様式に代えて、受注者・製造会社等が独自に作成した様式や土木学会等制定の一般市販品の様式を用いることも可能であるが、この場合、Ⅱ 土木工事施工管理基準 に示す必要なデータが記録可能であることを受注者自らが確認するものとする。また、本様式に示されていない場合についても、同様とする。

## （１）指定様式一覧

- 様式－１ 施工管理総括表の表紙記入例
- 様式－２ でき形測定結果表
- 様式－３ でき形測定取まとめ図
- 様式－４ 舗装路面の平坦性測定
- 様式－５ 土質試験結果一覧表
- 様式－６ 土、凍上抑制層の突固め試験
- 様式－７ 現場における土の単位体積重量試験（砂置換法）
- 様式－８ 盛土締固め総括表
- 様式－９ 凍上抑制層、路盤工 材料試験成績一覧表
- 様式－10 凍上抑制層、下層路盤 材料のふるい分け試験一覧表
- 様式－11 路盤材料の突固め及び修正 C B R 試験成績表
- 様式－12 路盤材締固め度測定総括表
- 様式－13 基層、表層工の骨材試験成績一覧表
- 様式－14 ふるい分け試験取まとめ図
- 様式－15 アスファルト混合物の温度測定結果一覧表
- 様式－16 アスファルト混合物の密度試験結果一覧表
- 様式－17 計量自記々録合格判定値
- 様式－18 計量自記々録値判定成果
- 様式－19 コンクリート管理試験日報
- 様式－20 空気量、スランプ等の取りまとめ図
- 様式－21 骨材試験成績一覧表
- 様式－22 コンクリート骨材ふるい分け試験取まとめ図
- 様式－23 コンクリート品質検査報告書
- 様式－24 寒中コンクリート温度管理記録表
- 様式－25 レディーミクストコンクリート配合計画書
- 様式－26 レディーミクストコンクリート納入書
- 様式－27 注入モルタル、プレパクトコンクリート管理試験日報
- 様式－28 注入コンクリート報告書
- 様式－29 注入コンクリート配合報告書

- 様式-30 P Cグラウト工試験
- 様式-31 プレストレッシング管理表(1)
- 様式-32 プレストレッシング管理表(2)
- 様式-33 高力ボルト締付け検査記録票
- 様式-34 キャンバー測定記録表
- 様式-35 膜厚測定記録
- 様式-36 塗膜厚の度数分布表
- 様式-37 くい打込み記録表
- 様式-38 くい貫入量測定記録図
- 様式-39 場所打ちくい施工記録票
- 様式-40 場所打ちくい管理記録図
- 様式-41 井筒、深礎 施工記録表
- 様式-42 井筒、深礎 施工管理図
- 様式-43 地点標設置成果表
- 様式-44 地点標設置工事現地地点検調書
- 様式-45 水門出来形記録表
- 様式-46 捨石均し出来形測定表
- 様式-47 基礎工 均し出来形図
- 様式-48 基礎工 均し出来形平面図
- 様式-49 杭出来形管理表
- 様式-50 杭打込記録
- 様式-51 矢板出来形管理表
- 様式-52 ケーソン製作管理表
- 様式-53 ケーソン据付管理表
- 様式-54 ブロック製作出来形管理表
- 様式-55 中詰・蓋コンクリート出来形管理表
- 様式-56 上部コンクリート出来形測定表
- 様式-57 洗掘防止マット出来形測定表
- 様式-58 出来形平面図
- 様式-59 係船柱出来形管理表
- 様式-60 防舷材出来形管理表
- 様式-61 車止め出来形管理表
- 様式-62 トンネル内空断面出来形測定結果表
- 様式-63 二次覆工打設前巻立空間測定結果表
- 様式-64 二次覆工出来形測定結果表
- 様式-65 吹付コンクリート出来形測定結果表
- 様式-66 ロックボルト出来形測定結果表(1)
- 様式-67 ロックボルト出来形測定結果表(2)
- 様式-68 細骨材試験成績報告書(吹付コンクリート)
- 様式-69 吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書

様式-70 ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表

様式-71 ロックボルト定着確認試験成績報告書

(2) 自由様式一覧

様式-自1 試験盛土による盛土締固め総括表

様式-自2 コンクリート強度試験表（シュミットテストハンマーによる）

様式-自3 ひび割れ調査票(1)

様式-自4 ひび割れ調査票(2)

様式-自5 ひび割れ調査票(3)

様式-自6 ひび割れ調査票(4)

様式-自7 ひび割れ調査票(5)

上記の自由様式に関する本書の記載例は、参考扱いとする。

( 様式 - 1 )

令和○年度

( 工事名 ) 取りまとめ結果表

でき形部分検査 または 工事完成検査

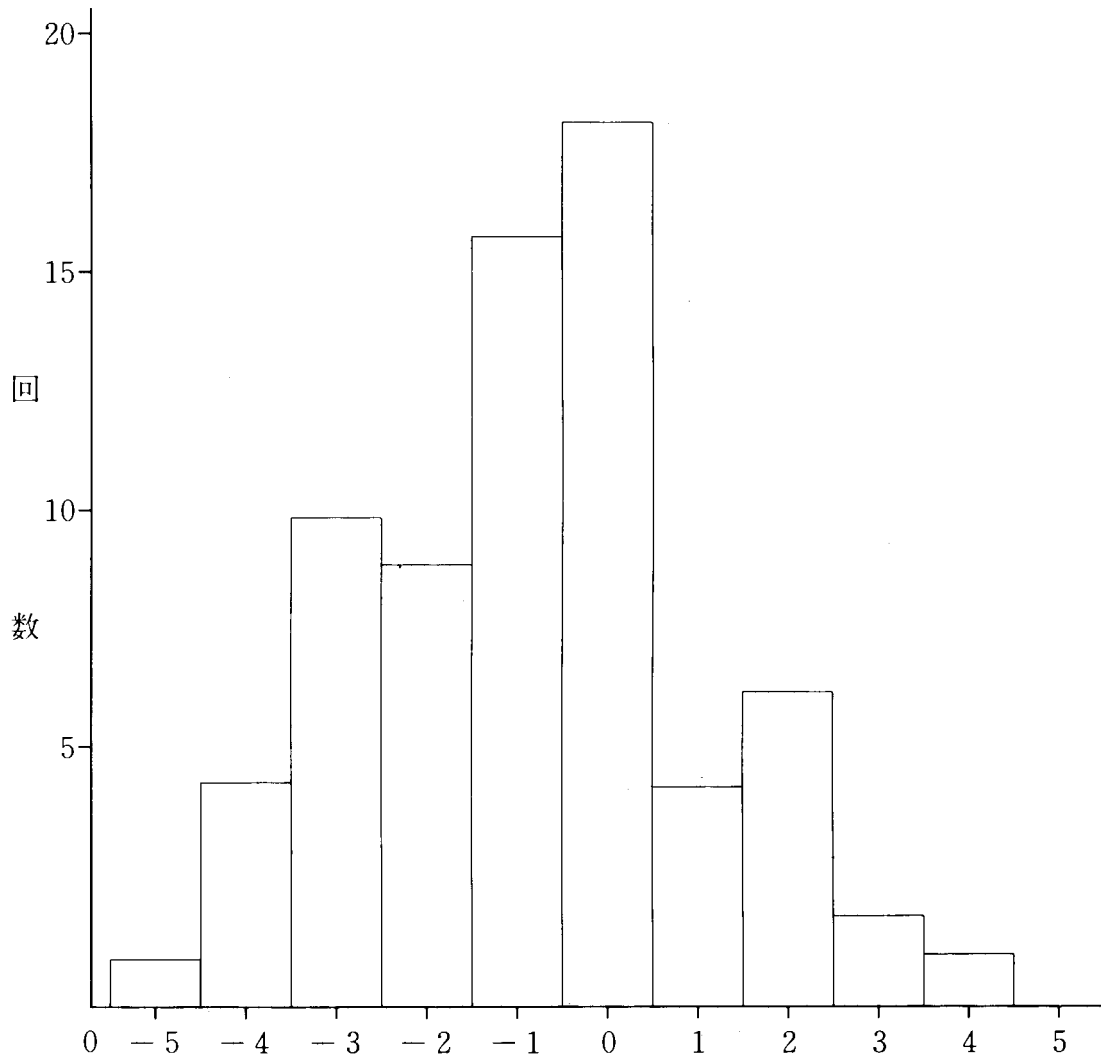
施工者	受注者名
現場代理人	氏 名
監理 (主任) 技術者	氏 名



〔記入要領〕

- イ 路床・路盤・舗装体各層の設計値と測定値とのずれの差を記入する。
- ロ この図は、請負者測定の結果を整理したもののみを記入する。
- ハ 図の下には、算術平均値を記入する。

工種名	細粒度アス・コン工	高さの出来形測定
-----	-----------	----------



設計値とのずれの差(cm)

測定数 71

$$\left. \begin{array}{l} \text{差} -85 \\ \text{+26} \end{array} \right\} -59 \therefore \text{ずれの差の平均} = \frac{-59}{71} = -0.83\text{cm}$$

様式 - 4		舗装路面の平坦性測定				試験 用紙 報告			
調査・工事名 _____		測定年月日 _____ 年 ____ 月 ____ 日		測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3 m <sup>2</sup> プロファイルメータ		測定開始点 _____		測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3 m直線定規	
測定終了点 _____		測定距離 _____		測定者 _____		シート番号 _____			
No.	d	No.	d	No.	d	No.	d	No.	d
1		21		41		61		81	
2		22		42		62		82	
3		23		43		63		83	
4		24		44		64		84	
5		25		45		65		85	
6		26		46		66		86	
7		27		47		67		87	
8		28		48		68		88	
9		29		49		69		89	
10		30		50		70		90	
11		31		51		71		91	
12		32		52		72		92	
13		33		53		73		93	
14		34		54		74		94	
15		35		55		75		95	
16		36		56		76		96	
17		37		57		77		97	
18		38		58		78		98	
19		39		59		79		99	
20		40		60		80		100	
①	Σ d (mm)		*		②	Σ d <sup>2</sup> (mm <sup>2</sup> )		*	
③	データ数	*		標準偏差 $\sqrt{((2)-①^2/③)/((③)-1)}$ (mm)				*	
備考									
注) * 印の欄は、最後のデータシートのみ記述する。									

様式-5

## 土質試験結果一覧表

工種名

測定者

試料土 No.									
試料土の深さ	地表面から								
	基準面から								
試料土採取年月日									
試料土採取時の天候									
土粒・子の密度									
粒度	最大径								
	2.0mmふるい通過率 %								
	425 $\mu$ " %								
	75 $\mu$ " %								
コンシスィ	液性限界 %								
	塑性限界 %								
	塑性指数								
分類	統一分類法								
	日本統一分類法								
	見かけ								
自然土と土	現場含水比 %								
	現場乾燥密度 g/cm <sup>3</sup>								
	最適含水比 %								
	最大乾燥密度 g/cm <sup>3</sup>								
円錐貫入試験 (コンシスィ指数)	地山 (N=0)								
	室内	N=20							
		N=40							
		N=80							
		N=120							
ボーリング柱状及び中心線に沿う土層断面図									

記事
----

注) 記事欄には試験機関名その他の試験結果等を記入すること。



様式-6

# 土 凍上抑制層の突固め試験

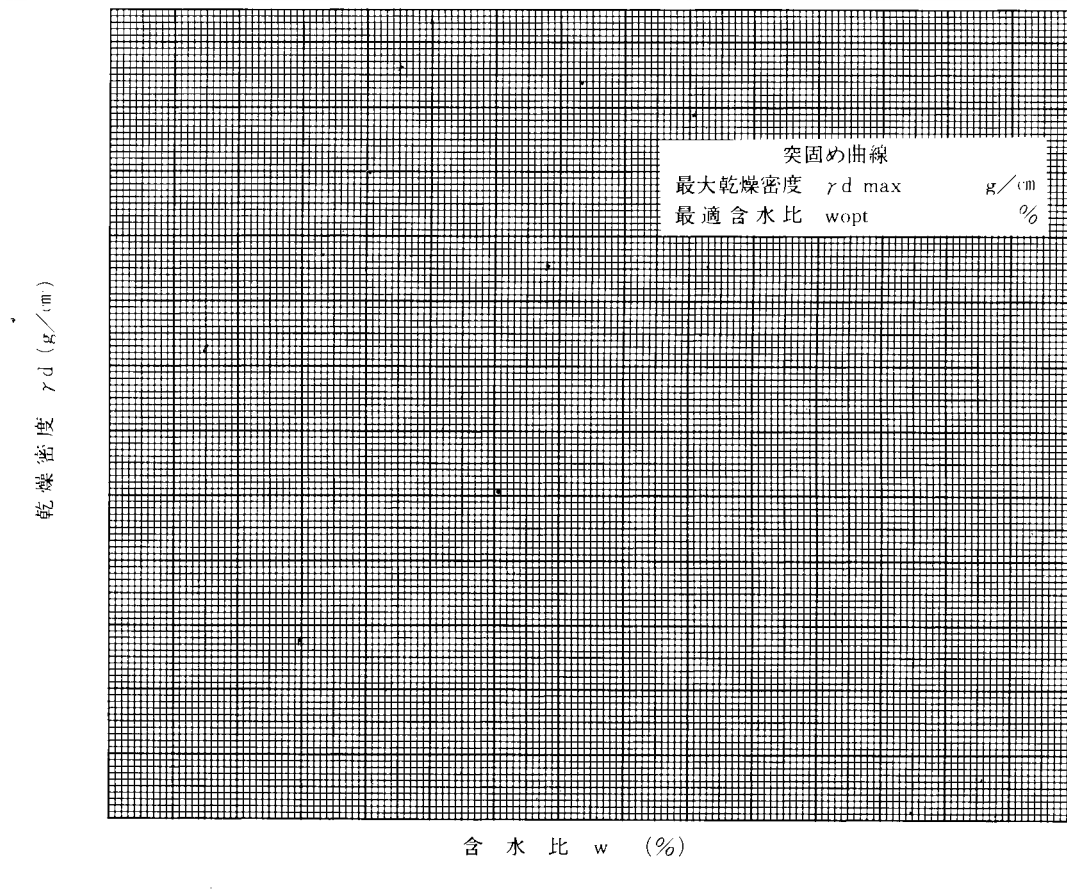
試料採取地名 \_\_\_\_\_

試料番号 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

試験目的：普通締固め・CBR締固め      乾燥処理前含水比： \_\_\_\_\_ %      乾燥処理後含水比： \_\_\_\_\_ %  
 試験方法の呼び名：試験方法 \_\_\_\_\_      試験開始前含水比： \_\_\_\_\_ %      土粒子の密度： \_\_\_\_\_  
 突固め方法： \_\_\_\_\_      試料の使用別：繰返し法・非繰返し法  
 モールド内径：10cm・15cm \_\_\_\_\_ cm      試料の準備法：乾燥法・湿潤法  
 試料許容最大粒径 \_\_\_\_\_ mm      許容最大粒径以上の粗粒分の乾燥重量百分率 \_\_\_\_\_ %

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 $\gamma_d$ (g/cm <sup>3</sup> )								
平均含水比 $w$ (%)								



備考      \* その他突固め方法：ランマー重量 \_\_\_\_\_ kg,      落下高 \_\_\_\_\_ cm,      突固め回数 \_\_\_\_\_ 回/層( \_\_\_\_\_ 層)

            \*\* 湿潤法を用いた場合

様式-7

注 砂 法	現場における土の単位体積重量試験（砂置換法）	報 告 用 紙
-------	------------------------	---------

調査名・調査地点 \_\_\_\_\_ 試験年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

測点番号・深さ：No. \_\_\_\_\_ (m) \_\_\_\_\_ 天 \_\_\_\_\_ 候

所 属 \_\_\_\_\_ 試 験 者 \_\_\_\_\_

試 験 用 砂 の 検 定	検 定 マ ス の 深 さ	H							
	測 定 器 番 号	No.							
	測定器および投入した砂重量 (一定重量)	$W_1$	g						
	測 定 器 重 量	$W_2$	"						
	投 入 砂 重 量	$W_a = W_1 - W_2$	"						
	検 定 容 器 お よ び 砂 重 量	$W_3$	"						
	検 定 容 器 重 量	$W_4$	"						
	検 定 容 器 内 砂 重 量	$W_b = W_3 - W_4$	"						
	測 定 器 お よ び 残 砂 重 量	$W_5$	"						
	測 定 器 内 残 砂 重 量	$W_c = W_5 - W_2$	"						
	検 定 容 器 の 体 積	$V_c = 206 \times H$	cm <sup>3</sup>						
	試 験 砂 の 単 位 体 積 重 量	$\gamma_s = \frac{W_b}{V_c}$	g/cm <sup>3</sup>						
	平 均 値	$\gamma_s$	"						
	ベースフレードおよび漏斗を 満たす砂重量	$W_f = W_a - W_b - W_c$	g						
	平 均 値	$W_f$	"						

土 の 単 位 体 積 重 量 測 定	試 験 孔 番 号	No.					
	土 質 名						
	土 の 最 大 粒 径	Dmax	cm				
	容 器 番 号	No.					
	(湿潤土+容器)の重量	$W_6$	g				
	容 器 の 重 量	$W_7$	"				
	湿 潤 土 の 重 量	$W_d = W_6 - W_7$	"				
	測定器および投入砂重量	$W_8(W_1)$	"				
	測定器および残砂重量	$W_9$	"				
	試験孔にはいった砂の重量	$W_{10} = W_8 - W_9 - W_f$	"				
	試 験 孔 の 体 積	$V = W_{10} / \gamma_s$	cm <sup>3</sup>				
	土の湿潤単位体積重量	$\gamma_t = W_d / V$	g/cm <sup>3</sup>				
土の乾燥単位体積重量	$\gamma_d = \frac{100\gamma_t}{100+W}$						

備 考

土 粒 最 大 径	含 水 量 試 験 最 小 試 料 量	粒 度 試 験 最 小 量
0.5 mm	100 g	250 g
1.25	200 g	625
2.5	500 g	2,000
5.0	1,000 g	4,000

$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$	$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$	$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$	$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$
$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$	$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$	$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$	$N_6$ ..... $W_a \dots W_b \dots$ $W_b \dots W_c \dots$ $W_w \dots W_s \dots$ $w = \dots \%$
平均含水比 $W = \dots \%$	平均含水比 $W = \dots \%$	平均含水比 $W = \dots \%$	平均含水比 $W = \dots \%$

様式-8

盛土締固め 総括表

盛土材料採取地点	自然 含水比	最適 含水比	最大 乾燥密度	盛土地点	締め時の 含水比	現場		現場 飽和度	摘 要
						現場密度	締め度 固め %		

様式—9

凍上抑制層 材料試験成績一覽表  
路盤工

材 料 名	産、 地	納 入 社 社

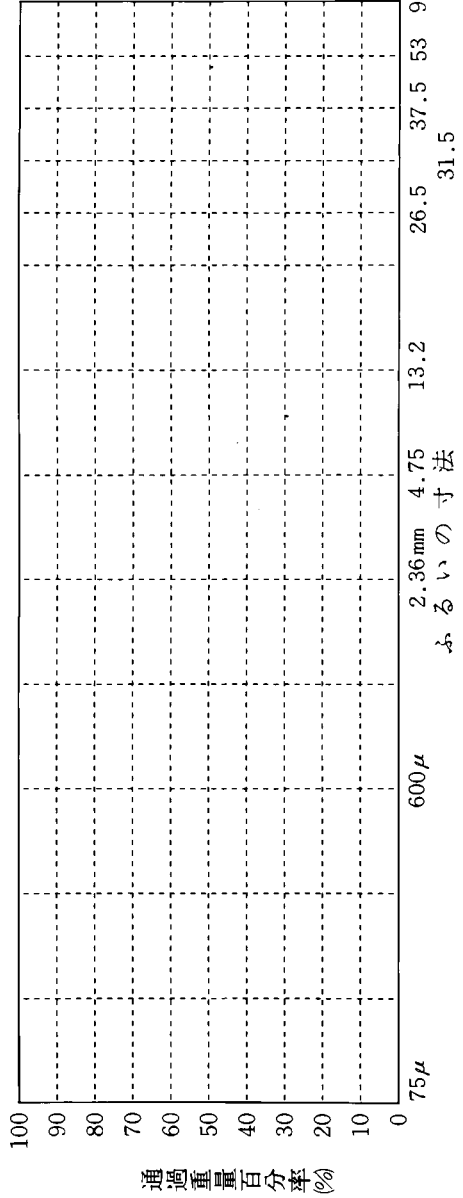
凍上抑制層材料  
(火山灰)

75 μ 通過量 (%)	
強 熱 減 量 (%)	
凍 上 率 (%)	
凍 結 樣 式	

75 μ 通過量 (%)	
(切込砂利・切込碎石)	
75 μ 通過量 (%)	

ふるい目 呼び名	ふるい通過重量百分率(%)	
	90mm 53mm 37.5mm 4.75mm	

75μ通過量—4.75mm以下の重量に対する75  
μ以下の重量の割合



加熱アスファルト安定処理材料  
(切込砂利・切込碎石)

比 重	
す り へ り 量 (%)	
安 定 性 (%)	

ふるい目 呼び名	粒 度		
	ふるい通過重量百分率(%)		
	37.5mm 31.5mm 26.5mm 13.2mm 2.36mm 75μ		

記 事

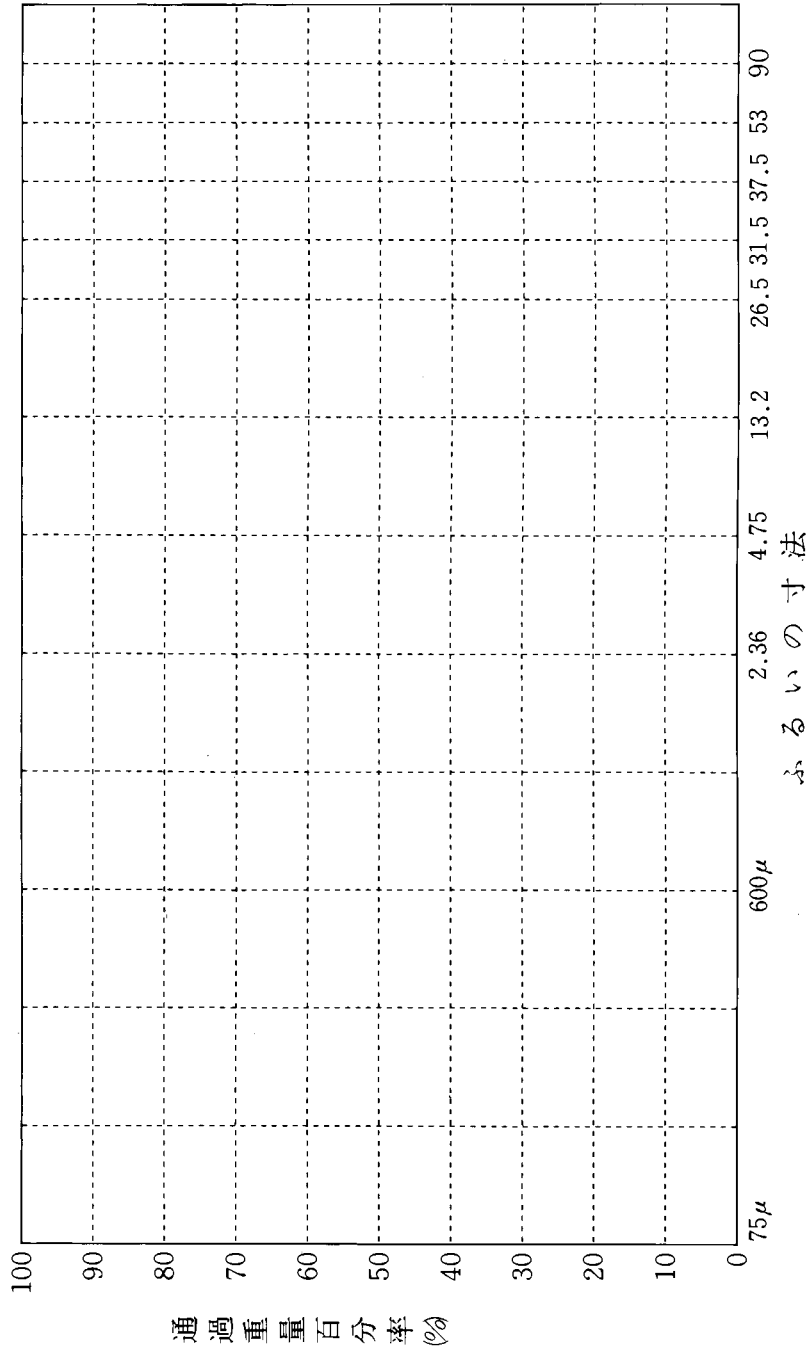
注) イ、産地及び材料ごとに記入すること。 ロ、仕様書の粒度範囲も記入すること。 ハ、記事欄には試験機関名その他の結果を記入すること。

様式-10

凍上抑制層材料のふるい分け試験一覧表  
下層路盤

材 料 名

測 定 者



記 事

注) 仕様書の粒度範囲を記入すること。

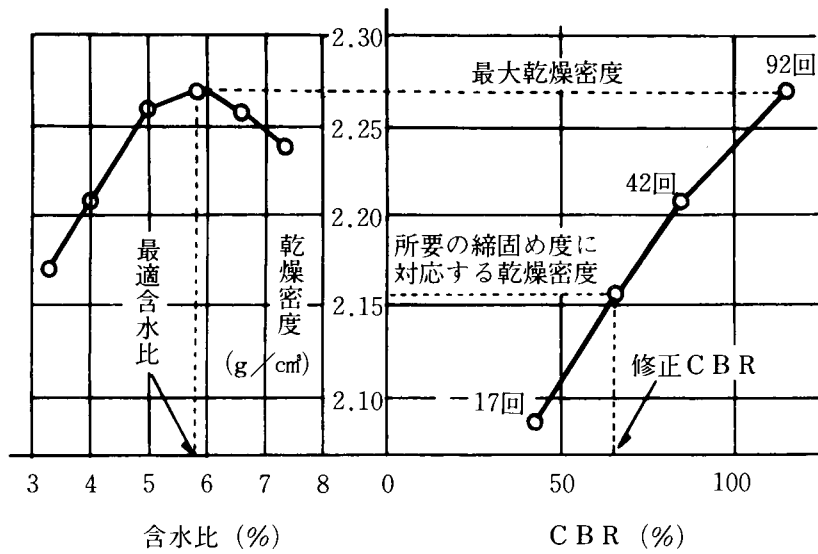
様式-11

路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表

測定者

材料名	産地	納入会社

乾燥密度・含水比・CBR関係図



最適含水比 (%)	5.6
最大乾燥密度 (g/cm³)	2.27
締固め度 (%)	95
修正CBR (%)	66

記事

試験目的: CBR締固め

試験方法の呼び名: 試験方法 アスファルト舗装要綱

突固め方法: 第2法

試料の使用別: 非繰返し法

モールド内容: 15cm

試料の準備法: 乾燥法

試料許容最大粒径: 38.1mm

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 $\rho_{dg}/\text{cm}^3$	2.17	2.21	2.25	2.27	2.25	2.23		
平均含水比 $w\%$	3.2	4.0	4.7	6.0	6.6	7.4		

(注) 記事欄には試験機関名その他を記入すること。

様式-12		路盤材締固め度測定総括表			
種別		測定者			
月 日	測点及び位置	(基準値) 最大乾燥密度	現場密度		摘要
			現場密度	締固め度%	

- (注) 1. 各測定値を本表で取りまとめる。  
2. 再試験を行った場合等は摘要欄にその旨を記述のこと。

様式-13

基層工の骨材試験成績一覽表

材 料 名	産 地	納 入 会 社

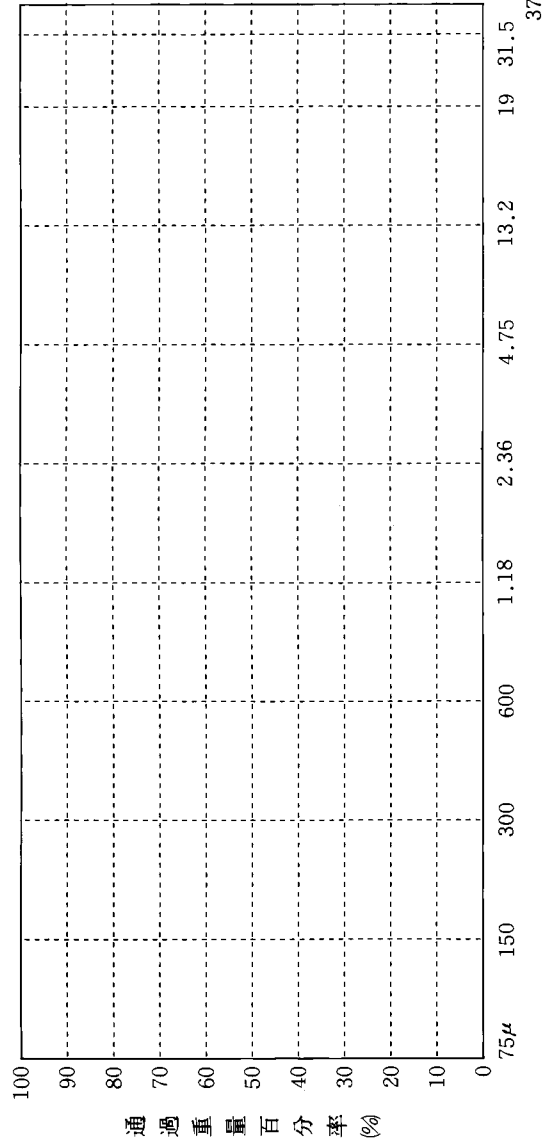
測定者 \_\_\_\_\_

アスファルト舗装用材料

碎石・砂利

粗 骨 材	比 重	
	吸 水 量 (%)	
	す り へ り 量 (%)	
	安 定 性 (%)	

細 骨 材	比 重	
	吸 水 量 (%)	
	安 定 性 (%)	



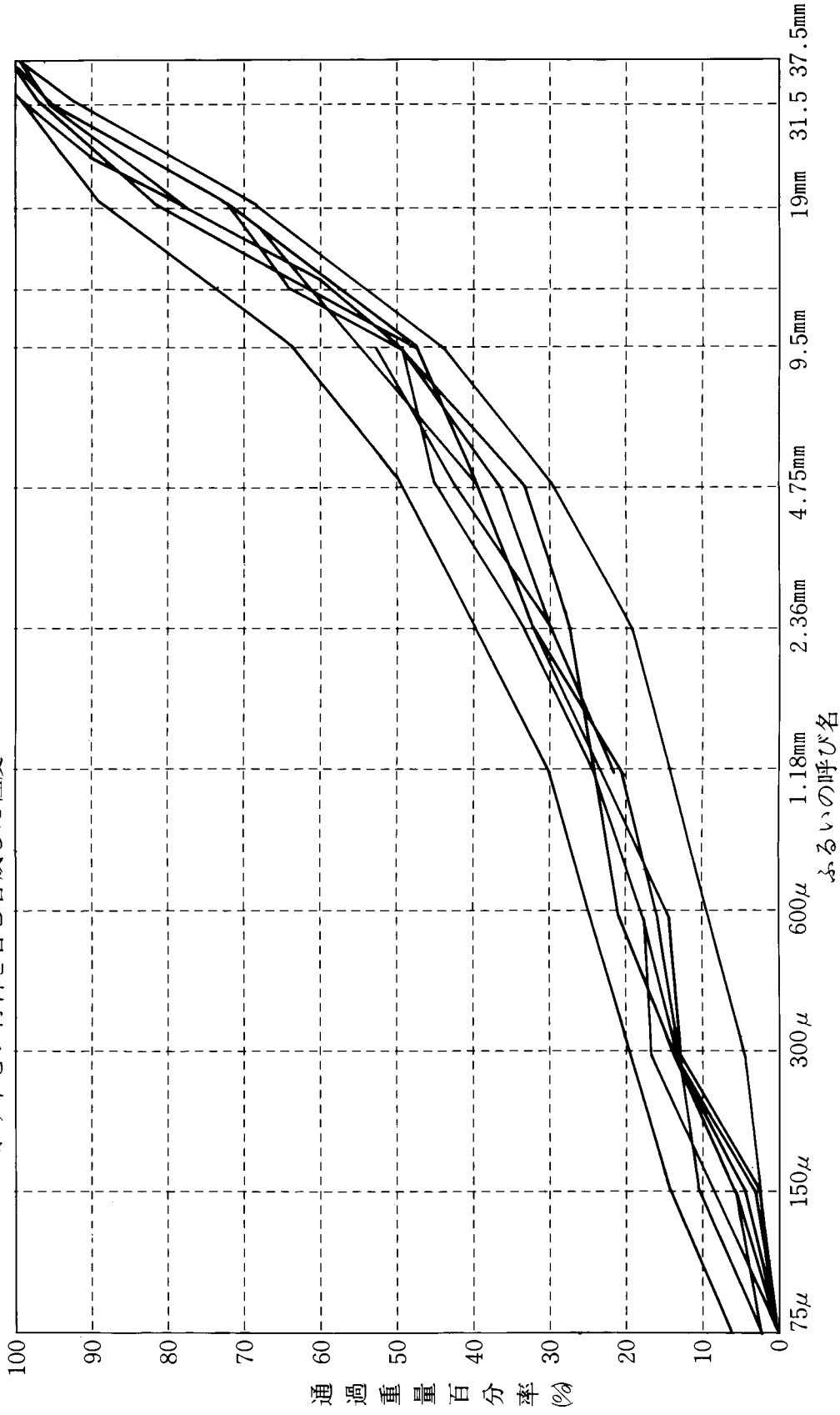
記 事

注) イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 記事欄には試験機関名その他の試験結果を記入する。



ふるい分け試験取まとめ図 (記載例)

ホットビン材料を含む合成した粒度



(記入要領) 各工種ごとに作製すること。

(混合物名)

様式-15

アスファルト混合物の温度測定結果一覧表

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

測定 月日	アスファルト混 合物 温度℃		敷ならし時 温度℃		温 度 管 理 図 ℃							摘 要		
	最 高	最 低	最 高	最 低	180	170	160	150	140	130	120			

記事

注) イ 当日の最低、最高値をプロットする。  
 ロ 記事欄には最適混合温度、異常原因その他必要事項を記入のこと。

様式-16

# アスファルト混合物の密度試験結果一覧表

工種名

測定者

測定位置	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	締固め度 (%)	締固め度管理区 (%)	摘要

記事

〔基準〕 仕様書の合格判定値 基準密度  
 〔測定結果〕 測定数 測定値の範囲 平均値  
 合格判定値との対比

様式-17

## 計 量 自 記 々 録 合 格 判 定 値

1. プ ラ ン ト

2. 合 材 の 種 類 細粒ギャップ・アスコン

3. 1バッチ当計量値 800 kg

4. 適 用 粒 度 1 ・ ②

※ 実施配合比及び配合値

骨材累積最終ビン	2.5mm直近ホットビン	石	粉	アスファルト
81.7%	38.4%	11.5%		6.8%
653.6 kg	307.2 kg	92.0 kg		54.4 kg

※ 合格判定値 I、II

項 目	判 定 項 目	合格判定値 I (kg)	合格判定値 II (%)
粒	骨材累積最終ビン	653.6 (±39.2)	—
		614.4~692.8	
度	2.5mm直近ホットビン	307.2 (±48.9)	53.0 (±11.0)
		258.3~356.1	42.0~64.0
石 粉	石 粉	92.0 (+19.9) (-13.8)	11.5 (+ 3.4) (- 2.3)
		78.2~119.9	9.2~14.9
アア スル フト	アスファルト	54.4 (± 3.5)	6.8 (± 0.8)
		50.9~ 57.9	6.0~ 7.6

上段：実施配合値（比）及び許容範囲

下段：計量値（比）許容範囲

様式-18

計量自記々録値判定成果

1. 合材の種類	細粒ギャップ・アスコン			No.	
2. 施工年月日					
3. 記録バッチ数	589	無効バッチ数	4	有効バッチ数	585
4. 合材出荷 t 数	467.835				

※各グループ別成果 (第1次合格判定)

グループ No.	有効 バッチ数	範囲にはずれる個数				備 考
		A	B	C	D	
		骨材累積 最終ビン	2.5 mm直近 ホットビン	石 粉	アスファルト	
1	1~100	0	0	0	0	
2	101~200	0	0	1	0	
3	201~300	0	2	4	1	
4	301~400	0	0	1	0	
5	401~500	0	2	6	1	不合格→2次合格判定 舗設測定000~000
6	501~585 600	0	0	0	0	
7	601~700					
8	701~800					

※第2次合格判定

グループNo.5のC.....407. 408. 452. 466. 489. 494

様式-19

コンクリート管理試験日報

供試体採取日	年 月 日		天候	気温	最高℃	最低℃	測定者								
示方配合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	砂 (kg)	混和剤	水 (ℓ)	現場配合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	細骨材 (kg)	混和材	水 (ℓ)	粗細骨材の調節	粗骨材の調節	骨量の調節	表面水による調節
構造物	打設位置	配合種別	設計コンクリート量 (m <sup>3</sup> )	コンクリート打設量			コンクリート温度 (℃)	スランブ (cm)	空気量 (%)	供試体採用数		備考			
				バッチ数	m <sup>3</sup>					7日	28日				
供試体記号・番号	配合種別	養生方法	試験材令 (日)	供試体質量 (kg)	最大荷量 (KN)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		備考							
						各個	平均								

記 事

注) レディーミクストコンクリートについては、現場配合の欄を省略することができる。

様式-20

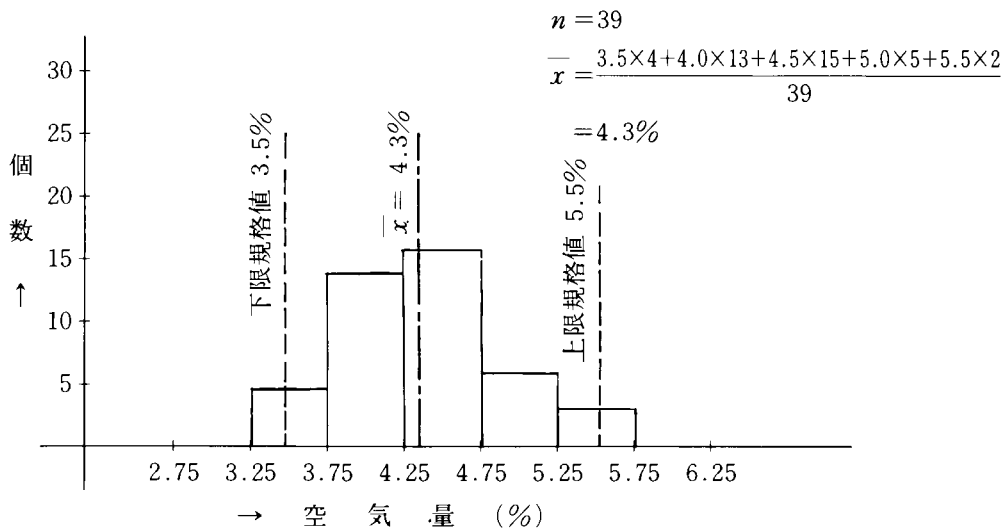
## 空気量、スランプ等の取りまとめ図

測定者 \_\_\_\_\_

配合種別 \_\_\_\_\_

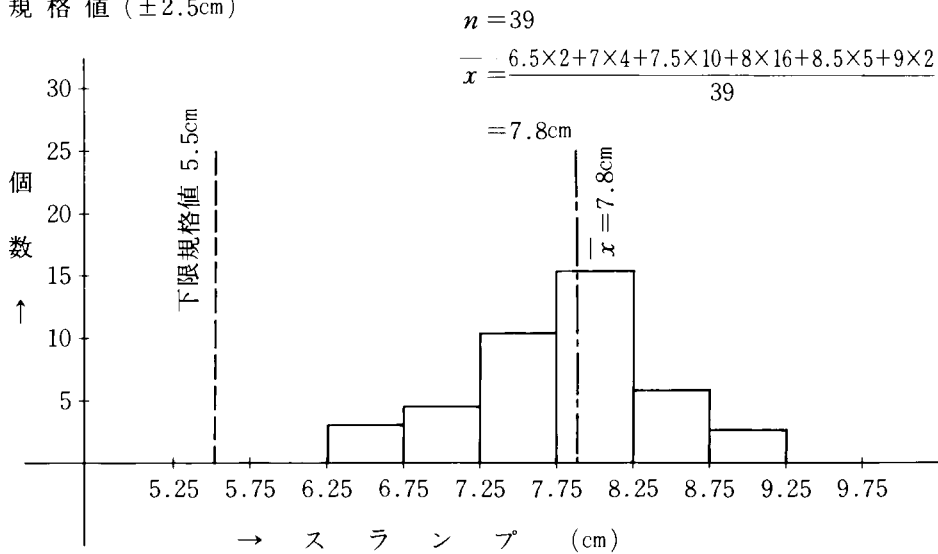
## I. 空気量の測定

空気量 (4.5%) の場合



## II. スランプの測定

スランプ (8 cm) の場合

規格値 ( $\pm 2.5$ cm)

様式-21

### 骨材試験成績一覧表

採取地 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

細骨材					粗骨材				
ふるいの開き mm	ふるい残留量		累加残留量		ふるいの開き mm	ふるい残留量		累加残留量	
	重量	百分率	重量	百分率		重量	百分率	重量	百分率
	g	%	g	%		kg	%	kg	%
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
合計					～				
粗粒率					～				
試験項目	単位	細骨材		粗骨材	～				
標準重量	kg/m <sup>2</sup>				～				
測定重量	kg/m <sup>2</sup>				～				
比重					以下				
吸水量	%				合計				
骨材の洗い	%				粗粒率				
スリへり減量	%								
骨材の安定性	%								
有機不純物									
粘土塊	%								
軟かい石片	%								
比重1.95以下	%								
塩分含有量	%								

	細骨材						粗骨材															
	0.075	0.15	0.30	0.40	0.6	1.2	2.0	2.5	5	10	13	15	20	25	30	40	50	60	80	90	100	150
累加重量百分率 (%)																						

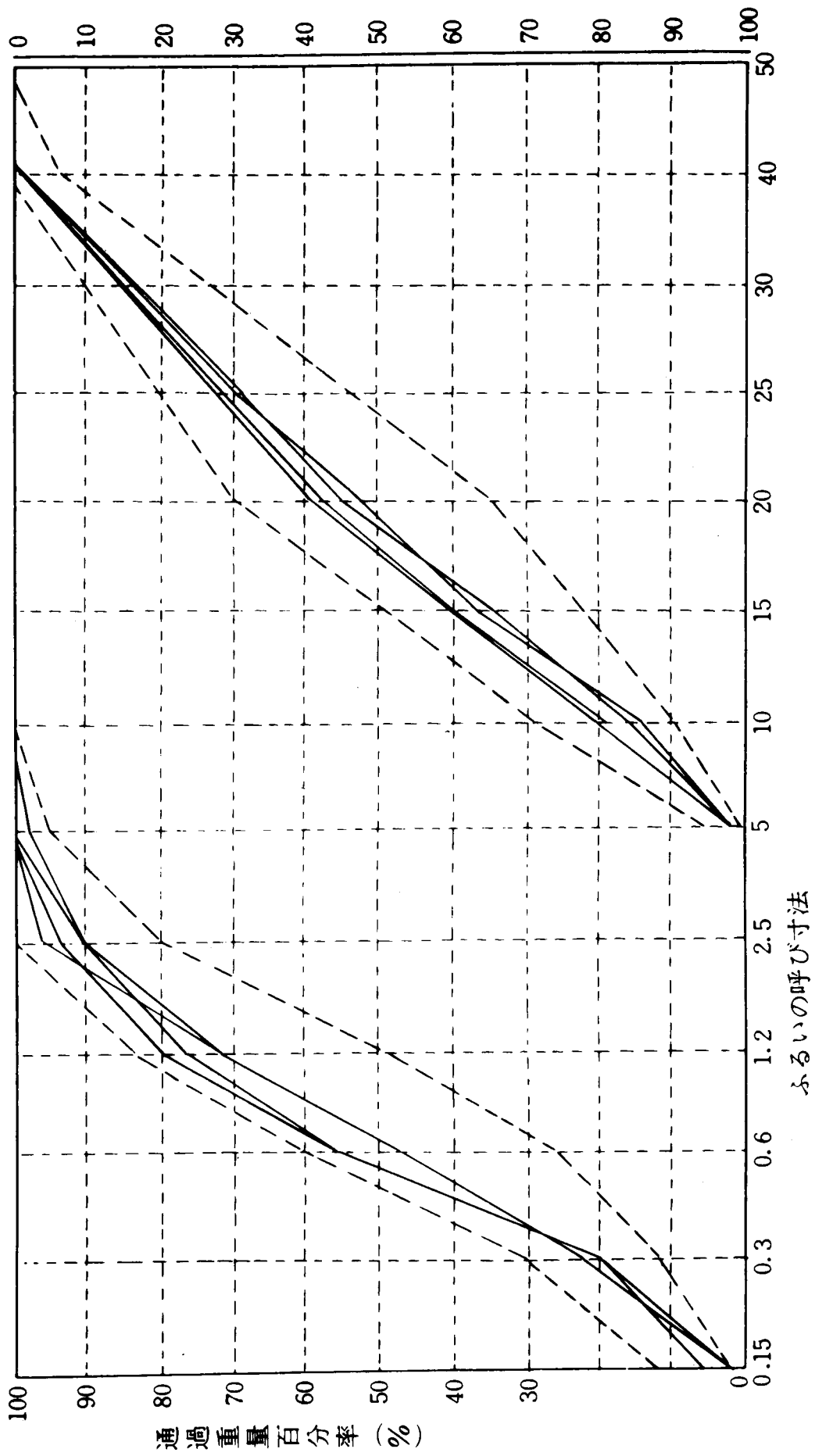
ふるいの開き (mm)

記事



コンクリート骨材ふるい分け試験取まとめ図(記載例)



様式-23

コンクリート品質検査報告書

測定者 \_\_\_\_\_

配合種別(記号)

呼び強度 \_\_\_\_\_  $N/mm^2$

※納入生コン工場 \_\_\_\_\_

構造物	打設位置	供試体		最大荷量 (KN)	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )			供試体採取 作業所名	試験 年月日	備考
		試験回数	番号		各個	平均	3回の 平均			

※試験回数 \_\_\_\_\_ の圧縮強度試験結果は当作業所に打設のものであることを証明します。

令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

作業所名 \_\_\_\_\_

責任者 \_\_\_\_\_

※試験回数 \_\_\_\_\_ の圧縮強度試験結果は当作業所で施工のものであることを証明します。

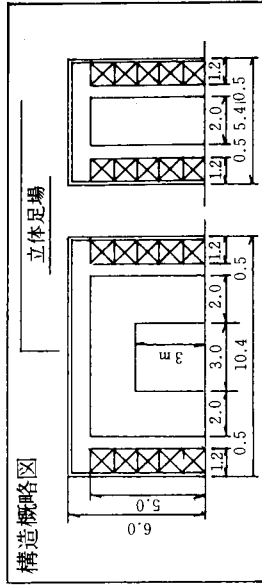
令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

作業所名 \_\_\_\_\_

責任者 \_\_\_\_\_

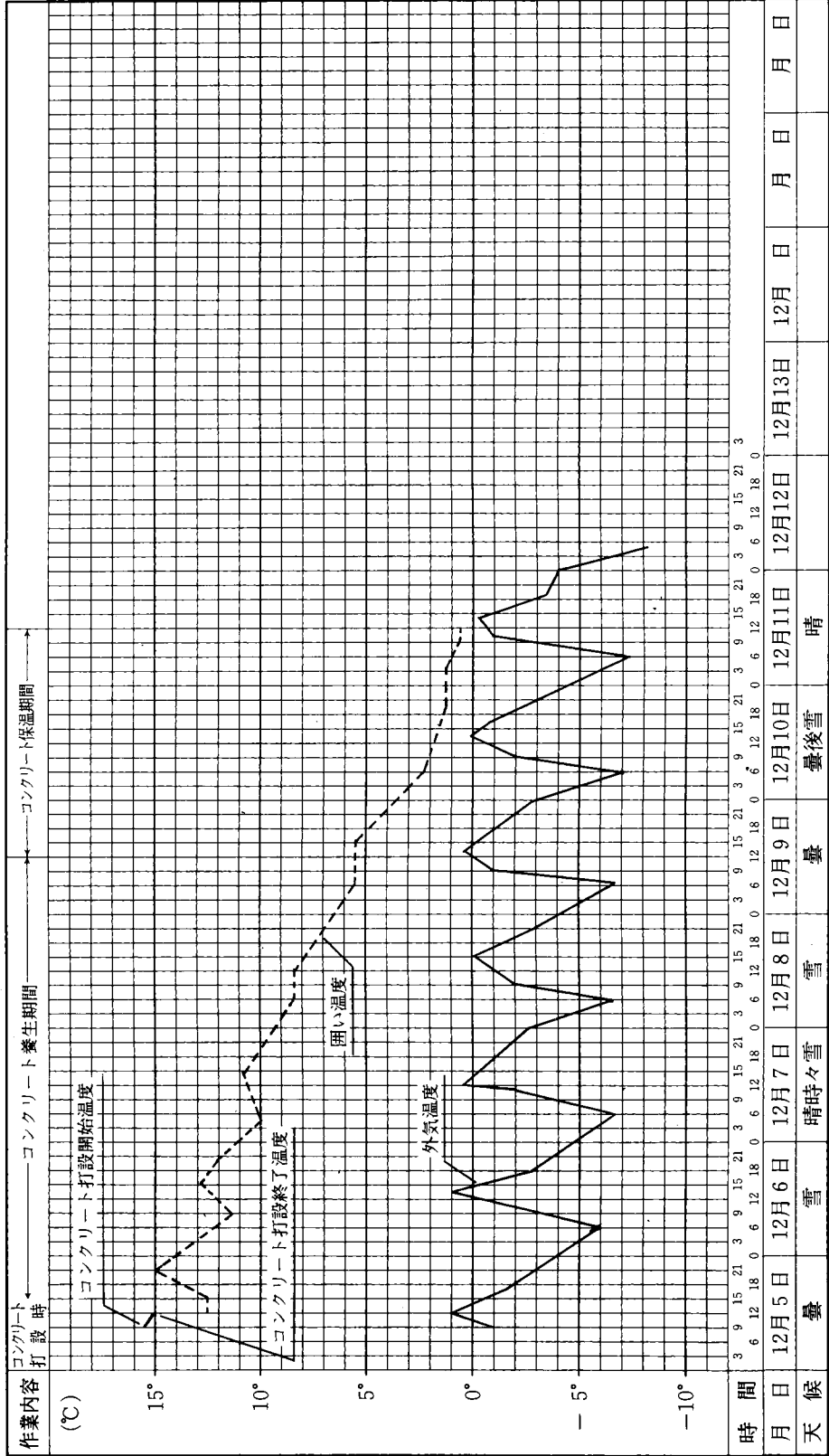
※生コン使用の場合記入する。これに変わる証明でもよい。

様式-24 寒中コンクリート温度管理記録表 (例)



構造物名	配合種別	設計量	打設量
橋脚駆体	RC-1	52.0	52.5
セメントの種類	構造場の露出状態		
普通ポルトランドセメント	普通の露出状態		

測定者 \_\_\_\_\_



レディーミクストコンクリート配合計画書										No. _____
殿										令和 ____年 ____月 ____日
製造会社・工場名 _____										
配合計画者名 _____										
工事名称										
所在地										
納入予定時期										
本配合の適用期間 a)										
コンクリートの打込み箇所										
配合の設計条件										
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号				
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載			空気量		%			
	骨材の種類	使用材料欄に記載			軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m <sup>3</sup>			
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載			コンクリートの温度		最高最低 ℃			
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)				水セメント比の目標値の上限		%			
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載			単位水量の目標値の上限		kg/m <sup>3</sup>			
	水の区分	使用材料欄に記載			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		kg/m <sup>3</sup>			
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			流動化後のスランブ増大量		cm			
	塩化物含有量	kg/m <sup>3</sup> 以下								
呼び強度を保証する材齢		日								
使用材料 c)										
セメント	生産者名				密度 g/cm <sup>3</sup>			Na <sub>2</sub> Oeq d) %		
混和材	製品名	種類			密度 g/cm <sup>3</sup>			Na <sub>2</sub> Oeq e) %		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実績率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲 % i)
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①									
	②									
	③									
粗骨材	①									
	②									
	③									
混和剤①	製品名			種類			Na <sub>2</sub> Oeq j)			
混和剤②							%			
細骨材の塩化物量 k)		%		水の区分 1)				目標スラッジ固形分率 m)		%
配合表 n) kg/m <sup>3</sup>										
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
水セメント比		%		水結合材比 o)		%		細骨材率		%
備考 骨材の質量配合割合 p)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。										

様式-25

レディーミクストコンクリート配合計画書（続き）

アルカリ総量の計算表 <sup>1)</sup>			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_c$ $R_c = (\text{単位セメント量kg/m}^3) \times (\text{セメント中の全アルカリ量Na}_2\text{Oeq: \%}/100)$	① = $R_c$	—	
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_a$ $R_a = (\text{単位混和材量kg/m}^3) \times (\text{混和材中の全アルカリ量: \%}/100)$	② = $R_a$	—	
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_s$ $R_s = (\text{単位骨材量kg/m}^3) \times 0.53 \times (\text{骨材中のNaClの量: \%}/100)$	③ = $R_s$	—	
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_m$ $R_m = (\text{単位混和剤量kg/m}^3) \times (\text{混和剤中の全アルカリ量: \%}/100)$	④ = $R_m$	—	
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_p$ <sup>r)</sup> $R_p = (\text{単位流動化剤量kg/m}^3) \times (\text{流動化剤中の全アルカリ量: \%}/100)$	⑤ = $R_p$	—	
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_t$ $R_t = ① + ② + ③ + ④ + ⑤$	$R_t$	3.0kg/m <sup>3</sup> 以下	適・否

用紙の大きさは、日本工業規格A列4番（210×297mm）とする。

注 a) 本配合の適用区間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。

なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。

b) JIS A 5308 附属書 B 表B.1の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。

c) 配合設計に用いた材料について記入する。

d) ポルトランドセメント及び普通エコセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210 の全アルカリの値としては、直近6ヶ月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。

e) 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。

f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。

g) 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生細骨材Hでは粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材Hでは粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。

h) 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗粒率の値を記入する。

i) 砕石及び砕砂を使用する場合に記入する。

j) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。

k) 最新版の骨材試験成績表の値（NaClとして）を記入する。

l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水（スラッジ水）”と記入する。

m) スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保証できるように定めた値である。

n) 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。

o) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

p) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。

q) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ別表に記入する。

r) 購入者から通知を受けたアルカリ量を用いて計算する。

レディーミクストコンクリート納入書										
殿						令和 年 月 日				
製造会社・工場名										
納入場所										
運搬車番号										
納入時刻			発着		時 分					
納入容積			m <sup>3</sup>		累計			m <sup>3</sup>		
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号	
配合表 <sup>a)</sup> kg/m <sup>3</sup>										
セメント	混和材	水	細骨材	細骨材	細骨材	粗骨材	粗骨材	粗骨材	混和剤	混和剤
水セメント比		%		水結合材比 <sup>b)</sup>		%		細骨材率		%
備考 配合の種類： 標準配合 修正標準配合 計量読取記録から算出した単位量 計量印字記録から算出した単位量 計量印字記録から自動算出した単位量										
荷受職員認印				出荷係認印						

注記 用紙の大きさは、日本工業規格A列5番(148mm×210mm)又はB列5番(182mm×257mm)とするのが望ましい。

注 a) 標準配合、修正標準配合、計量読取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記載する。また、備考欄の配合種別については、該当する項目にマークを付す。

b) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

様式-27

注入モルタル  
プレパクトコンクリート

管理試験日報

供試体採取年月日	年月日		天候	気温	最高℃	最低℃	受注者	測定者				
モルタル配合	水(l)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(%)	水給合材比(%)	摘要			
モルタル配合	水(l)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(%)	水給合材比(%)	摘要			
構造物	打設位置	設計プレパクトコンクリート量(m <sup>3</sup> )	モルタル打設量		モルタル温度(℃)	フロー値(秒)	ブリーディング率(%)	膨張率(%)	供試体採取日			
			バッチ数	m <sup>3</sup>					7日	28日	91日	
供試体番号	配合種別	養生方法	試験材令(日)	供試体質量(kg)	最大荷重(KN)	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )						
						各個	平均					
モルタル												
コンクリート												
記事												

## 注入コンクリート報告書

令和      年      月      日

様    工事名

注入個所		粗骨材 填充月日		填充量	
注入時刻	開始	前後	時	分	所要
	終了	前後	時	分	時間
注入量	バッチ 数		総量		セメント 使用量
フロー値	1回	2回	3回	4回	5回
注入状況その他（パイプ配置略図等）					
監督員		報告者			



様式-29

## 注人コンクリート配合報告書

様 施行者

整理番号		報告年月日		配合計画者名			
工事名							
所在地							
注入コンクリート施工カ所				所要フロー値			
セメント種別		製造会社名		単位セメント量	kg/m <sup>3</sup>		
フライアッシュ種別(会社別)		分散剤		ポゾリス No 8	濃度		
細骨材		最大寸法	mm	粗粒率	% 比重		
砂利、碎石		同上	mm	空隙率	% 同上		
最大セメント水比	% 4週圧縮強度				kg/m <sup>3</sup>		
標準配合表							
	セメント	フライアッシュ	細骨材	ポゾリス No 8	アルミ粉末	水	フロー値
	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	ℓ/m <sup>3</sup>	sec
材料所要量							
一パッチ材料所要量							
重量配合比					水、セメント比	%	
配合設計の方法その他							

様式-30

## PCグラウト工試験

令和	年	月	日
天候			

測定者 \_\_\_\_\_

試験番号 \_\_\_\_\_  
 試験場所 \_\_\_\_\_  
 測定開始時刻 午前・後 時 分  
 測定終了時刻 午前・後 時 分

気温 \_\_\_\_\_℃  
 セメント温度 \_\_\_\_\_℃  
 使用水温 \_\_\_\_\_℃  
 グラウト温度 \_\_\_\_\_℃

## 1. 材料

材 料	種 類	製造業者
セメント		
フライアッシュ		
セメント分散剤		
A L 粉 末		

## 2. 練り混ぜ

ミキサ \_\_\_\_\_  
 ミキサの回転数 \_\_\_\_\_回/分  
 練り混ぜ時間 \_\_\_\_\_分  
 材料投入時間 \_\_\_\_\_分 秒

## 3. バッチ配合

W/C	C	W	Pozz	AL	AL/C
(%)	(kg)	(kg)	(g)	(g)	(%)

## 4. 試験

練り混ぜ後放置時間	分
	秒
流下時間	秒
	秒

番 号	直後の読み (cc)	3時間経過後の読み		20時間以上経過 後の読み		ブリージング率		膨張率(%)	
		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間 以上

圧縮強度試験					圧縮強度試験				
番 号	材 令	荷重(KN)	圧縮 強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備 考	番 号	材 令	荷重(KN)	圧縮 強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備 考
平 均					平 均				

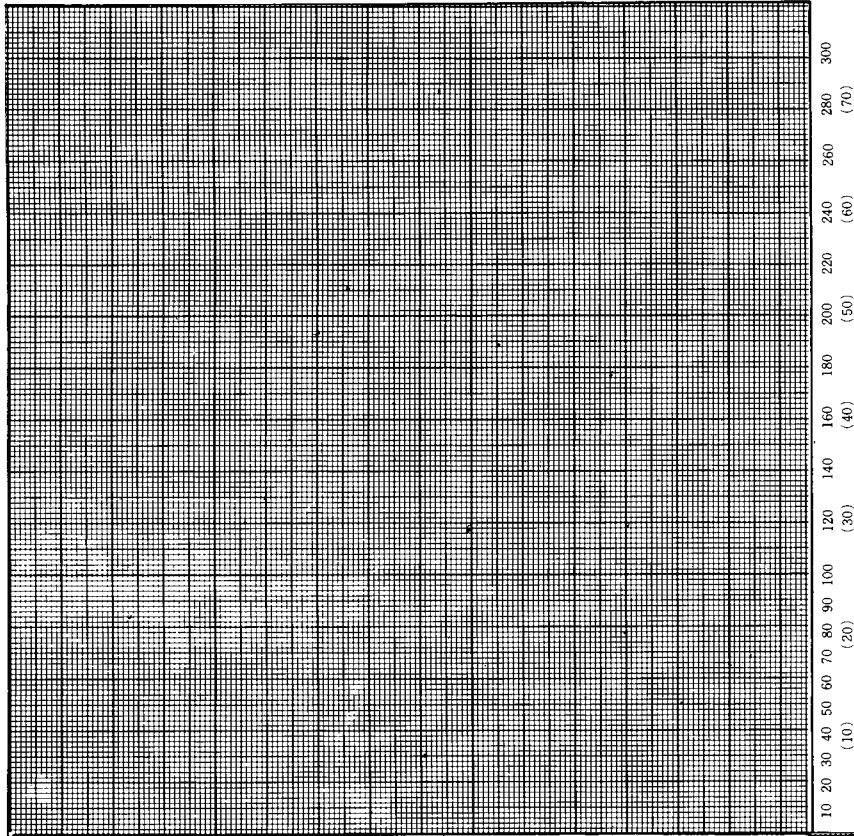
様式-31

プレスストレッチング管理表(1)

測定者

緊張年月日	年	月	日
けた番号 No			
ケーブール No	C		
緊張順序			

圧力計 (kg/cm <sup>2</sup> )	伸び (mm)		合計
	方	方	
P <sub>2</sub>	△ℓ	△ℓ	Σ△ℓ
300			
250			
200			
150			
100			
50			
0 補整			
補整全伸び			



コンクリート打設	年	月	日
コンクリートの圧縮度	σ =	N/mm <sup>2</sup> (自然養生)	
	σ =	N/mm <sup>2</sup> (養生)	
支間中央最終戻り値	mm		
短縮量	mm		

緊張上の特記事項	
晴・曇・雨	気温 ℃

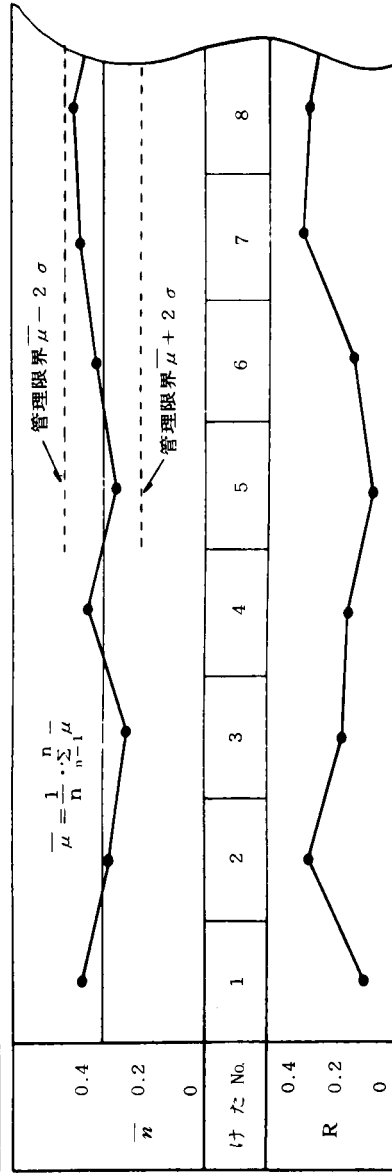
様式-32

プレストレッシング管理表(2)

(PCケーブルの組による管理)

けた番号	1	2	3	4
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値( $\mu$ )	0.37 0.27 0.36 0.34 0.40 0.40	0.18 0.30 0.20 0.10 0.40 0.45		
$\mu$ の平均値( $\bar{\mu}$ )	0.375	0.272		
$\mu$ の範囲(R)	0.13	0.35		

けた番号	8	9	10	11
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値( $\mu$ )	0.28 0.63 0.38 0.34 0.35 0.29			
$\mu$ の平均値( $\bar{\mu}$ )	0.378			
$\mu$ の範囲(R)	0.35			



様式-33

高力ボルト締付け検査記録票

検査年月日	年月日	測定者	N・m (kgf・m)	
高力ボルトの種類	締付けボルト軸力			
インパクトレンチ ボルトの軸力計 トルクレンチ 柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型	社製 社製 社製 社製	測定トルク値	算出トルク係	所要軸力になるためのトルク値
インパクトレンチの検定				
	午前 (作業開始前)	午後 (作業開始後)		
測定軸力		作業完了		
セットした軸力				
箇所	検査本数	所要トルク (T)	測定トルク値 N・m (kgf・m)	合計
				平均
				差
				許容トルク値
				略図及び名称

高力ボルト締め付け検査記録票

検査年月日	年月日	測定者	20.5 x 1.7 = 22.5 kg・m					
高力ボルトの種類	F I O T	締付けボルト軸力						
インパクトレンチ ボルト軸力計 トルクレンチ 柄のタフミによる型 ダイヤル目盛型	トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)							
インパクトレンチの検定	算出トルク数							
午前 (作業開始前)	午後 (作業開始前)	測定トルク値	測定トルク係	トルク数				
6,180	6,200	24.0	6.400	0.121				
6,100		22.0	6.200	0.128				
	作業完了	21.5	6.100	0.128				
		22.0	6.000	0.124				
		22.0	6.200	0.128				
				0.126				
測定軸力	No. 1 2 3 4							
セットした軸力								
筒所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルクの値 (kg・m)	合計	平均	誤差	許容トルク値	Ta = Tx (1±α%)
種別	4本 24本中	6,100	2~0 6,200	25,200	6,300	3.3%	U.Fling	
"	5本 48本中	"	10~11 6,100	31,600	6,320	3.6%	L.Fling	
" (Web:L)	5本 48本中	"	12~13 6,100	31,700	6,220	2.0%	Web	
" (Web:R)	4本 24本中	"	16~17 6,400	25,100	6,275	2.8%		

様式-34

キャンバナー測定記録表

工程	測定箇所	測 定 者		
		架 設 後	地 覆 ・ 高 欄	者
計画高(製作時)				
鋼げた	計画高			
架 設	施工高			
完了時	差			
床 版	計画高			
打 設	施工高			
完了時	差			
高 欄	計画高			
地 覆	施工高			
完了時	差			
鋪 装	測票高			
完了時	計画高			
	施工高			
	差			

注. 地覆施工時、地覆部に接点数の1/2程度の数の測標を設置するものとする。  
 測標はさびにくい材料によるものとし、舗装完了時の測標高を記録するものとする。

様式-35

### 膜 厚 測 定 記 録

塗 装 系	系					測 定 日 時	年 月 日		
測 定 時 間	工 場 後	現 場 後				測 定 者			
構 造 名						目 標 塗 膜 厚 合 計			
測定位置 測定値	1	2	3	4	5	平均 X <sub>i</sub>	平 方 根		備 考
							$\bar{X} - X_i$	$(\bar{X} - X_i)^2$	
G <sub>1</sub> -1 A B C D E F G H I J K L M N									
合 計						合 計			
平 均 値	$\bar{X} =$								

平均値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X_i$	
標準偏差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^n (\bar{X} - X_i)^2}$	

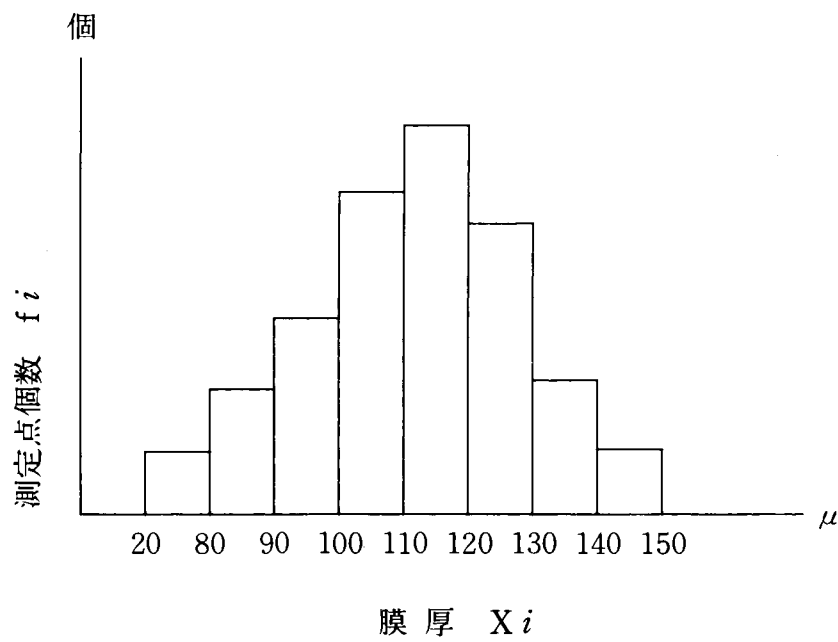


様式-36

## 塗膜厚の度数分布表

記録者 \_\_\_\_\_

膜厚 ( $\mu$ ) $X_i$	測定点個数 $f_i$	膜厚 ( $\mu$ ) $X_i$	測定点個数 $f_i$
20 ~ 29		110 ~ 119	
80 ~ 89		120 ~ 129	
90 ~ 99		130 ~ 139	
100 ~ 109		140 ~ 149	
		合 計	



様式-37

くい打込み記録表 (記載例)

くい番号 №		年月日		天候	気温	℃	土質		N	標高 (m)	貫入深さ (m)	撃回数とセンチ打メ	貫入当り量 (mm)	100cmごとの1打撃当り貫入量 (mm)	落下高の (cm)	ンリドバ量 (mm)	
くい打機諸元		長さ 15.0m		ディーゼルハイラムハンママー D-12		作業時間 3時間20分		作業時間合計		100		21		48			
管厚	9+12mm	作業時間	7'00"~10'20"		貫入深さ	*17.0m	径	600mm			49		35				
溶接時間	58'+47'=105'	総打撃数	2,740回		ラム落下高	110cm				95		133		11			
貫入量	0.8cm	リバウンド量	0.6cm						90		162		34				
支持力 (支持力の算定は次頁による)								れき交り砂質土		85		199		27			
								れき交り粘土		83		251		19			
								れき交り砂質土				318		15			
												396		13			
												460		16			
												524		16			
												600		13			
												668		15			0.8
												746		13			0.7
												829		12			3回の平均
												924		10			0.6
												1032		9			
												1142		9			
くい位置のずれ X-X		mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/100											
記事		* ヤットコ φ600mm L=4.00m を使用 +-----+ Kは継手位置															

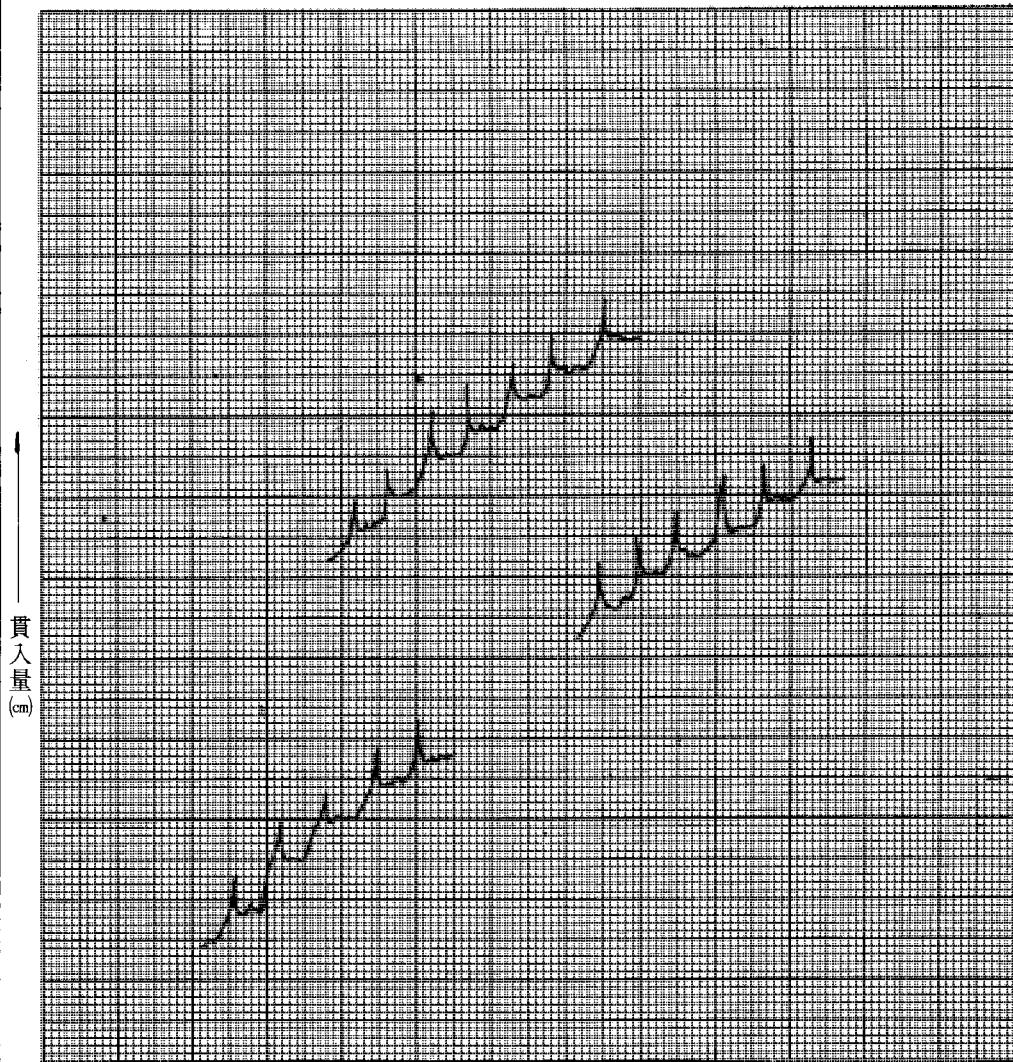
様式-38

くい貫入量測定記録図

くい番号	No		
貫入深度	G.L~	00	mm
ハンマ重量	W	1.25	ton
ハンマ落下高さ	H	110	cm
貫入量	S	0.4	cm
リバウンド	K	0.6	cm
長期許容支持力	Ra		ton

年月日 年 月 日

測定者



貫入量 (cm)

打撃数 n

様式-39

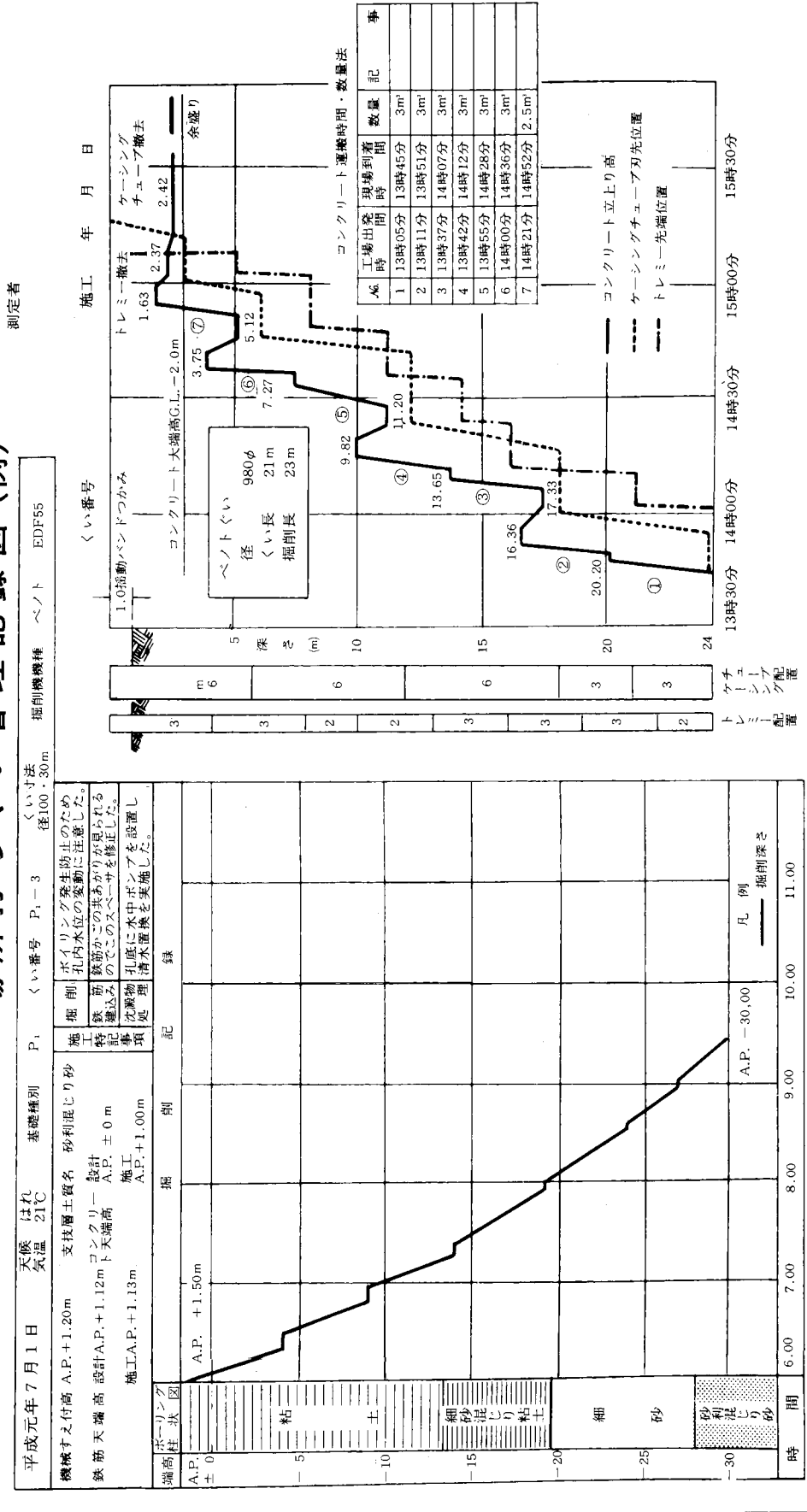
## 場所打ちぐい施工記録表

測定者 \_\_\_\_\_

施 工 記 録						( 年 月 日 )
くい番号		堀削深度		施工機械名		施工時間 合 計
機 械 段	ケーシン	堀 削	鉄 筋	トレミー	コンクリ	
取 替	グ建込み		建 込 み	建 込 み	ー ト 打 設	
㊟ 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
㊞ 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
㊟ 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
堀 削 記 録						
堀削深度	時 刻	土 質 名	堀削深度	時 刻	土 質 名	
m	時 分		m	時 分		
出 来 形 ・ 品 質 記 録						
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/
くい頭コンクリート	とりこわし長	cm	圧縮強度	$\sigma =$	N/mm <sup>2</sup>	

様式-40

場所打ちぐい管理記録図(例)



様式-41

# 井筒 深礎 施工記録表

基礎番号		型式形状		形状寸法		測定者				
使用機械										
特記事項					コンクリート 圧縮 強度	ロッド	強度	ロッド	強度	
月日	工種	作業内容	測定又は 作業時間	実測 地質	沈設又は 掘削深	累加沈設 (掘削)深	変位量	沈設 高	沈設 荷重	摘要

- 備考 1. 沈設又は掘削深さとあるのは、井筒の場合は沈設深、深礎の場合は掘削深さを記入する。  
 2. 沈設荷重欄は井筒の場合に記入する。

様式-42

井筒  
深礎

施工管理図(例)

基礎番号	第○号橋脚	形式形状	円形	形状寸法		φ8.00 20.0m	測定者	特記事項					
				位置のずれ	中埋材								
施工値	橋軸	すえ付地盤高H =100,000	天端H 100,000	月	日		切込砂利 (無規格)	1. 5.0~7.0mでポンプ(φ160)3台使用(80m <sup>2</sup> /H) 2. 18.5mで沈どが止まったので100t載荷する。					
		100,000 σ=+10	100,025 σ+25	X-X	+10								
	100,000 σ=±0	99,985 σ-15	Y-Y	-5									
	100,005 σ=+5	100,010 σ+10	X-X	-10									
直角	100,005 σ=+5	100,000 σ±0	天端	Y-Y	+5								
深度	ボーリング柱状図	実測柱状図	沈設記録			月日	コンクリート 打設ロット割 り及び高さ	中埋記録					
			月日	日数	日数								
+0	砂質土	砂質土	0	20日	1/4	0	10	20	30	60			
5	れき交り粘土	れき交り粘土	10	14日	1/2	10	14日	15日	15日	15日			
10	玉石交り土	玉石交り土	20	6日	3/4	20	6日	8日	8日	8日			
15			30	8日	1	30	8日	15日	15日	15日			
20			40	14日	1 1/2	40	14日	21日	21日	21日			
25			50	15日	2	50	15日	21日	21日	21日			
30	硬岩	硬岩	60	13日	2 1/2	60	13日	21日	21日	21日			

様式-43

地点標設置成果表

地点標	距離	型式	道路中心より の距離	地点標所在地	測点	主 名	要地		測点	考 備	路 線 名
							称	点			
											受注者
											担当者
											設置年月



地点標設置工事現地点検調書

路線名

検査年月日

設置延長

受注者

点検延長

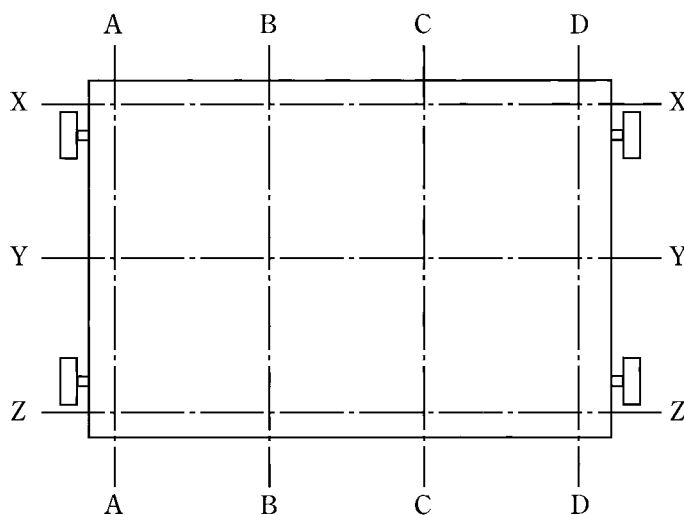
点検者職氏名

直線部				曲線部			
地点標	公称距離	実測距離	誤差	地点標	L <sub>2</sub>	L <sub>1</sub> L <sub>1</sub> '	誤差
				備考			
				点検は地点標設置工事に従事した技術者以外の者が行うこと。			

様式-45

水門出来形記録表

工 事 名	((例) ○○ 水 門 新設第○期工事						
測 定 時 期	(例) 現 場 塗 装 完 了 後 日						
測 定 箇 所	(例) ○○ ゲート 扉 体 前 面						
測 定 結 果	( 標準膜厚) ○○ (最低膜厚) ○○						
測 定 年 月 日				測 定 者			
測 定 値							
測 定 位 置	1 (上)	2 (下)	3 (左)	4 (右)		平 均	最 低 値
(例)1 A-X							
2 A-Y							
3 A-Z							
4 B-X							
5 B-Y							
6 B-Z							
7 C-X							
8 C-Y							
9 C-Z							
10 D-X							
11 D-Y							
12 D-Z							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
標準膜厚	—	—	—	—	—	(平均)	—



### 捨石均し出来形測定表

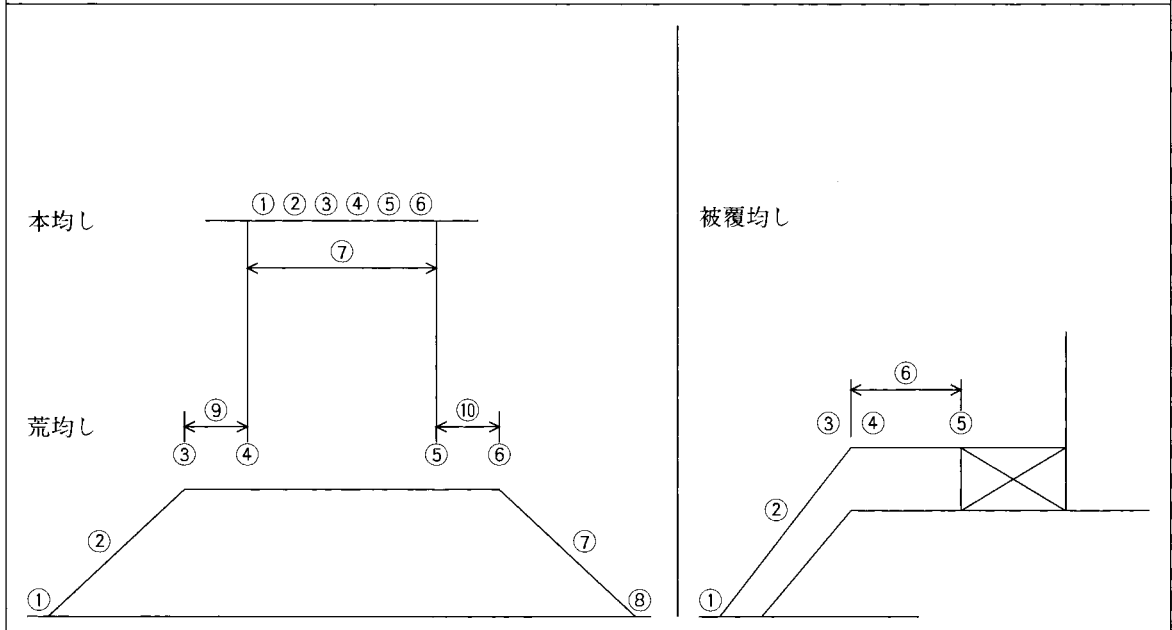
工事名: \_\_\_\_\_

現場代理人: \_\_\_\_\_

測定年月日: 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

測 線 No.	測 定 の 結 果						天端幅	延 長
	施 工 高							
	①	②	③	○	○	○		
(設計値)	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○

略 図 (記 入 例)



工事名:

基礎工 均し出来形図

現場代理人:

測定年月日:

年 月 日

■ 例

単位: m

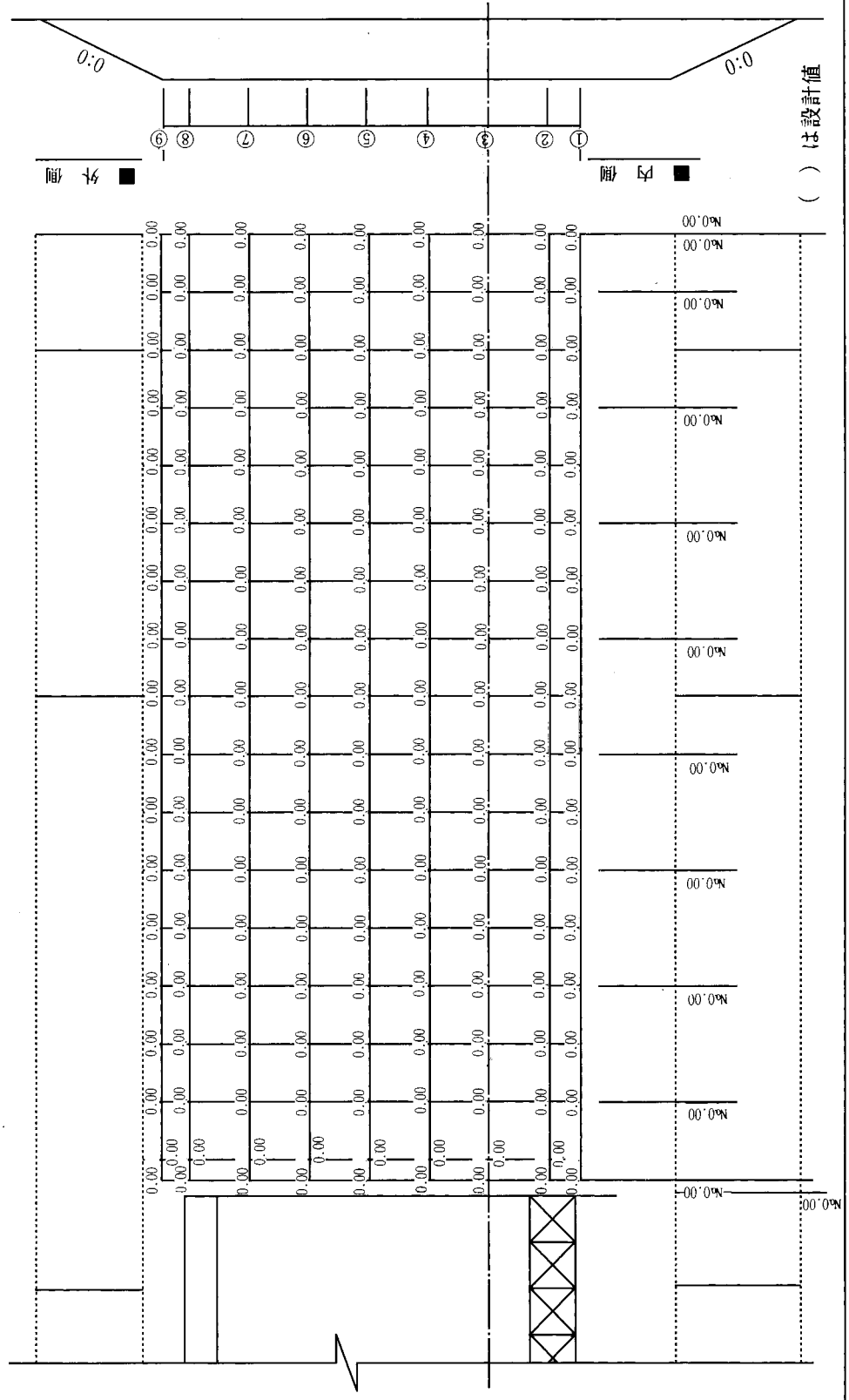
( )は設計値

基礎工 均し出来形平面図

現場代理人：  
測定年月日：

年 月 日

工事名



### 杭出 来 形 管 理 表

様式—49

工 事 名	年 月 日	現場代理人	ラム重量
断面形状	杭打機名称	型式	全重量

杭 番 号	長 　　さ (m)	打 年 月 日	杭 達 天 (m)	杭 頭 端 (m)	杭 先 端 高 (m)	杭 の 傾 斜 (度)	杭 中 心 位 置 (cm)	頭 置	備 考



矢板出来形管理表

工事名 \_\_\_\_\_ 断面形状 \_\_\_\_\_ 杭打機名称 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 型式 \_\_\_\_\_ 全重量 \_\_\_\_\_ ラム重量 \_\_\_\_\_ 現場代理人 \_\_\_\_\_

矢板番号	長さ (m)	打込年月日	矢板天端高 (m)	矢板先端高 (m)	矢板法線に対する出入り (cm)	矢板法線に対する傾斜 (×1/100)	矢板法線方向の傾斜 (×1/100)	備考

矢板壁延長 \_\_\_\_\_ m  
 " \_\_\_\_\_ 計画 \_\_\_\_\_ m  
 " \_\_\_\_\_ 実測 \_\_\_\_\_ m



# ケーソン製作管理表

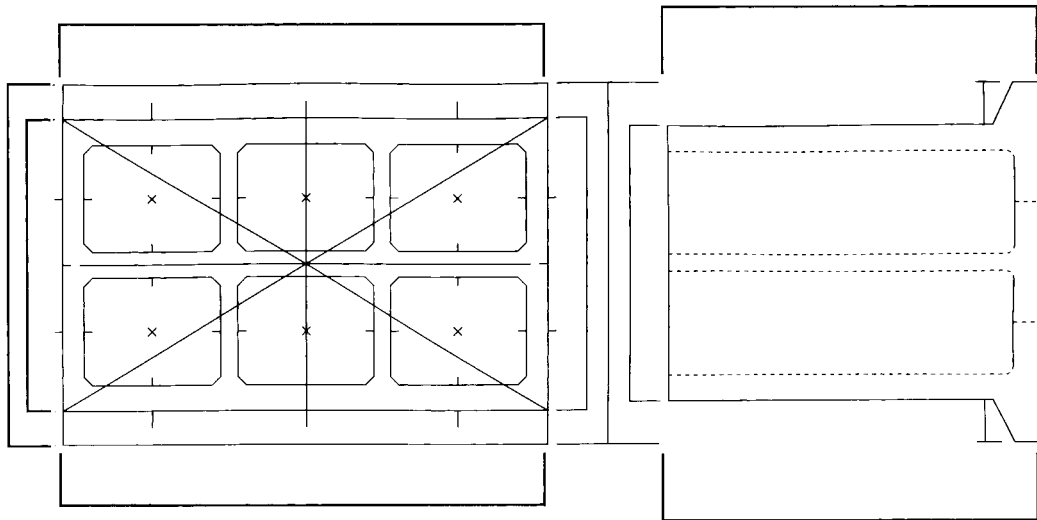
様式-52

工事名 \_\_\_\_\_

令和    年    月    日

現場代理人 \_\_\_\_\_

ケーソン製作確定位置



ケーソン出来形管理表

ケーソンNo.

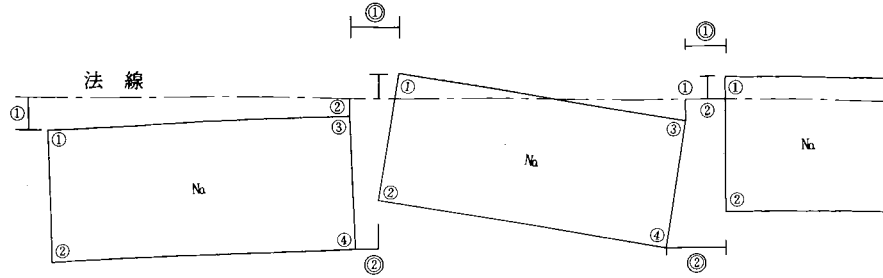
測定月日		月日	月日	月日	月日	月日	月日
測定位置	設計値	底版	各層	各層	各層	各層	天端層
高さ							
幅		両端、中央	中央	中央	中央	中央	4階
長さ		〃	〃	〃	〃	〃	両端、中央
壁厚		—	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
底版厚さ		各室中央	—	—	—	—	—
フーチング高	(1)		—	—	—	—	—
	(2)		—	—	—	—	—
対角線			—	—	—	—	—

工事名

令和 年 月 日

現場代理人

ケーソン据付測定位置



ケーソン据付出来形管理表

ケーソン 番号	法線に対する出入			据付目地間隔			据付時天端高さ		
	測定 位置	測定月日	測定値	測定 位置	測定月日	測定値	測定 位置	測定月日	測定値
No.1	①						①		
							②		
	②						③		
							④		
No.2	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.3	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.4	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.5	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.6	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		

ブロック製作出来形管理表 (記人例)

工 事 名 \_\_\_\_\_ ブロック名 \_\_\_\_\_ 現場代理人 \_\_\_\_\_

製作番号	長  さ		幅		高  さ		そ の 他								備 考
	B1	B3	A1	A3	C1	C3	C5	C7	D1	D3	E1	E3	F1	F3	
B2	B4	B4	A2	A4	C2	C4	C6	C8	D2	D4	E2	E4	F2	F4	
250	250	250	150	150	150	150	10	10	30	30	10	10	110	110	
規定寸法	250	250	150	150	150	150	10	10	30	30	10	10	110	110	
No.1	251	251	150	151	150	150	9	10	30	30	10	10	110	111	
No.2	251	250	151	151	150	151	10	10	30	30	10	10	111	110	

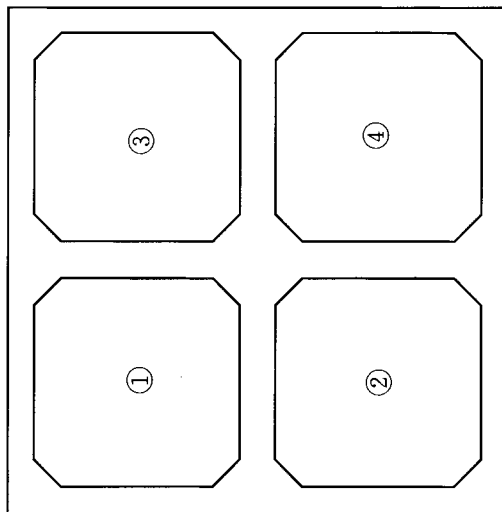
中詰・蓋コンクリート出来形管理表

工事名 \_\_\_\_\_

年 月 日 \_\_\_\_\_

ケーソンNo. \_\_\_\_\_

現場代理人 \_\_\_\_\_



項目 番号	ケーソン天端よりの値		(B)-(A)	備考
	実測値 (A)	設計値 (B)		
①				評容範囲±〇cm
②				
③				
④				

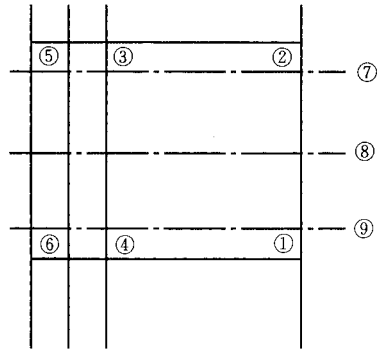
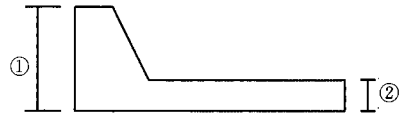
様式-56

上部コンクリート出来形測定表

工事名 \_\_\_\_\_ 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

スパン No.	測定月日	測定結果			
		天端高 又は厚さ	天端幅	延長	出入

略 図 (記入例)



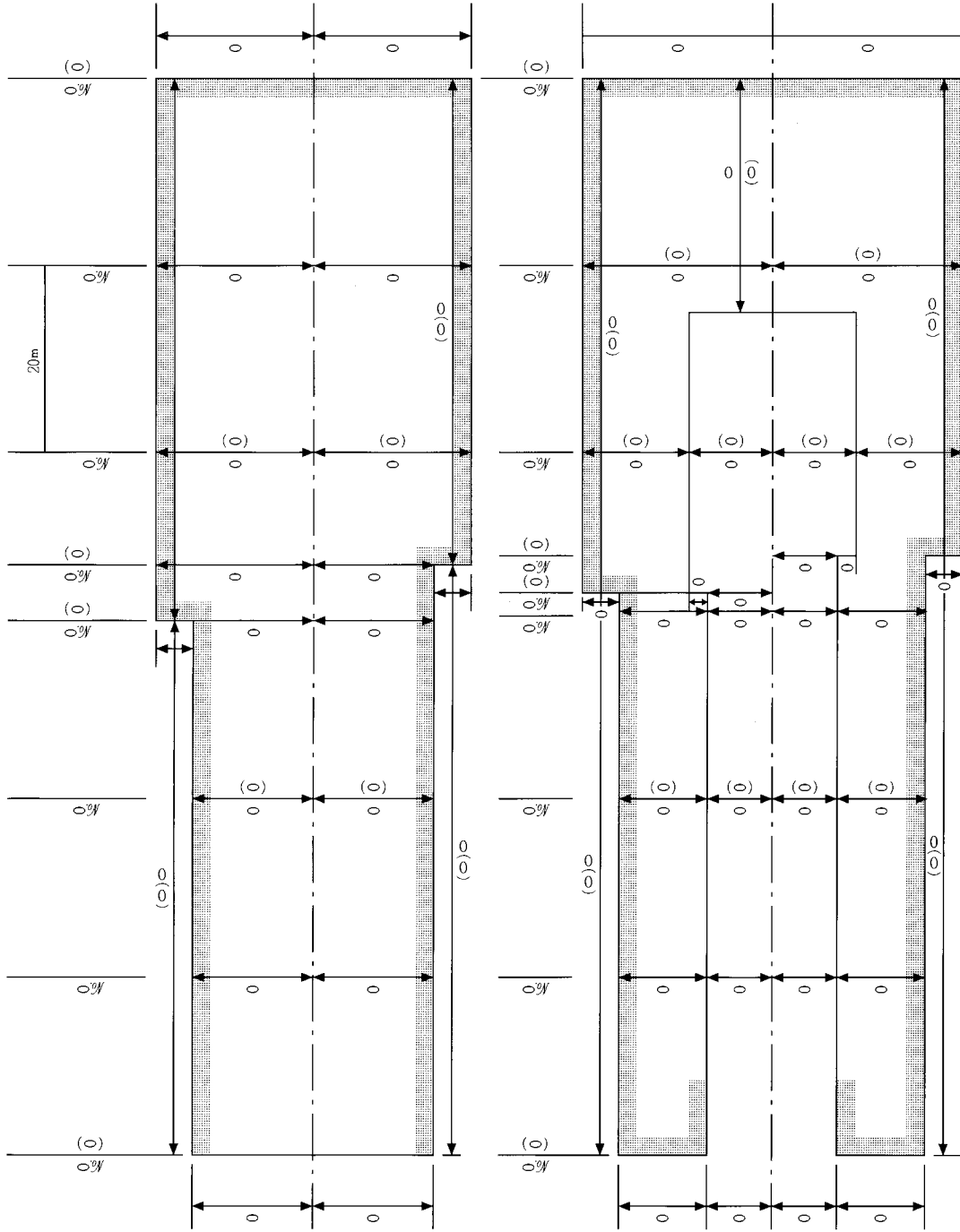
洗掘防止マット出来形測定表

工事名 \_\_\_\_\_ 年 月 日 \_\_\_\_\_ 現場代理人 \_\_\_\_\_

マ ッ ト №	敷 設 月 日	測			結 果		備	考
		敷 設 入 置	重 ね 幅	定	敷 設 幅	延 長		

注) 敷設位置マット№設計測線と関連づけて記入、重ね幅の記入は監督員の指示による。  
延長は、測定区間、全長を関連づけて記入。

出來形平面圖

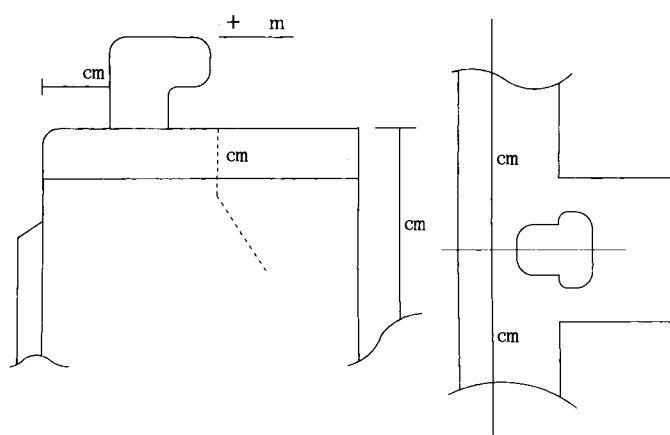




係船柱出来形管理表

工 事 名	
年 月 日	令和 年 月 日
現場代理人	

係船柱測定位置図



係船柱出来形管理表

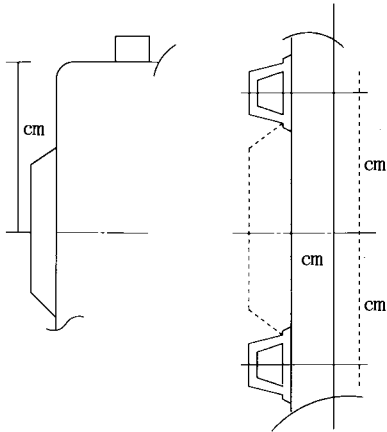
番 号	法線に対する出入	天 端 高	中心間隔	基礎コンクリート(直柱)		
				幅	長さ	高さ
基 点 0 より	—	—		—	—	—
№ 1						
№ 2						
№ 3						

様式-60

防舷材出来形管理表

工事名	
年月日	令和 年 月 日
現場代理人	

防舷材測定位置図



防舷材出来形管理表

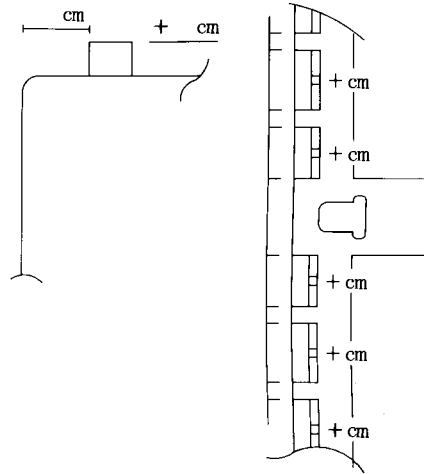
番号	取付高さ	中心間隔
基点 0より	—	
No. 1		
No. 2		
No. 3		
No. 4		

様式-61

車止め出来形管理表

工事名	
年月日	令和 年 月 日
現場代理人	

車止め測定位置図

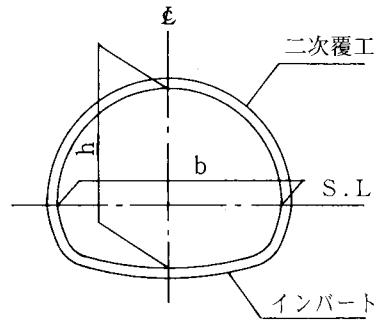
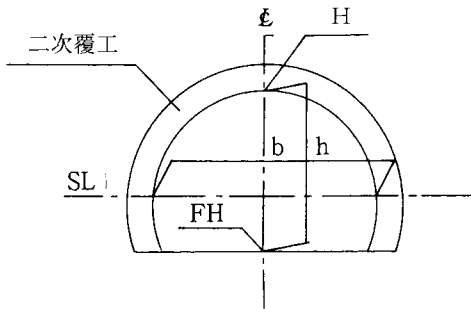


車止め出来形管理表

番号	法線に対する出入	天端高	取付間隔
基点 0より			
No. 1			
No. 2			
No. 3			
No. 4			

トンネル内空断面出来形測定結果表

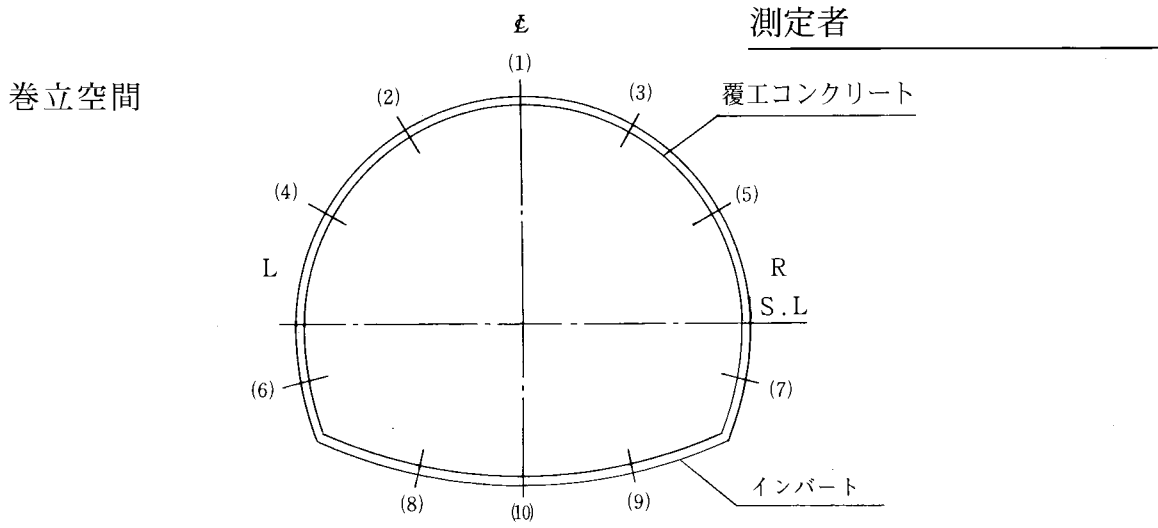
測定者 \_\_\_\_\_



測 点	基準高 H (m)			高さ h (m)			全 幅 b (m)			備 考
	設計幅A	施工幅B	差B-A	設計幅A	施工幅B	差B-A	設計幅A	施工幅B	差B-A	
規格値範囲	±50mm			-50mm			-50mm			

記 事：  
 ※ 施工延長40m以内につき1箇所。

二次覆工打設前巻立空間測定結果表



測定区間		SP= _____ ~SP= _____											
地山分類		設計覆工厚A				アーチ: _____ cm		インバート: _____ cm		規定値範囲		設計覆工厚以上	
中測	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート			
										(8)	(9)	(10)	平均値
	測定厚B(cm)												
間	設計厚との差 B-A(cm)												
終点	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート			
										(8)	(9)	(10)	平均値
	測定厚B(cm)												
点	設計厚との差 B-A(cm)												

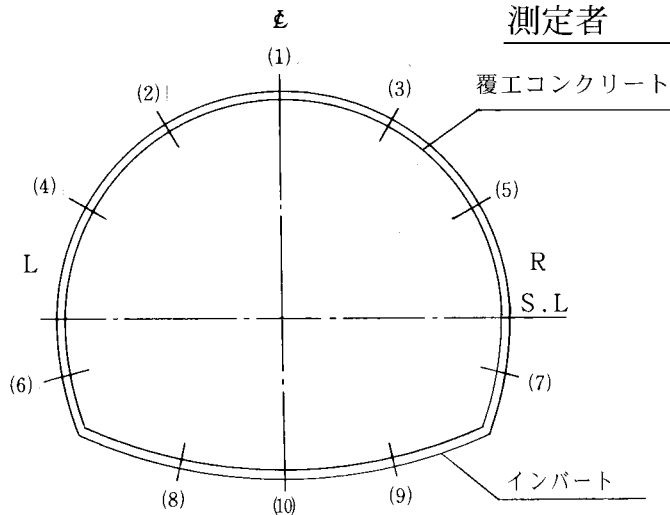
記事:

- ※ 1 打設長の間と終点を図に示す各点で測定。
- ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。
  - 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。  
ただし、変形が収束しているものに限る。
  - 2) 異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
  - 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

二次覆工出来形測定結果表

二次覆工端部

測定者 \_\_\_\_\_

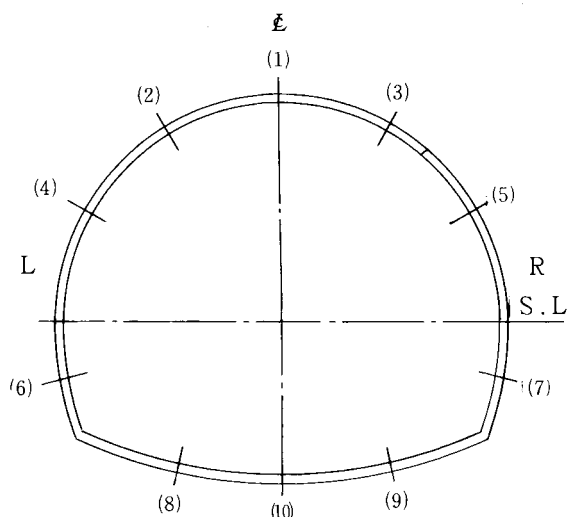


測定区間	SP = _____		~SP = _____											
地山分類					設計覆工厚A	アーチ:	cm	インバート:	cm	規定値範囲	設計覆工厚以上			
覆工端部	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート				
										(8)	(9)	(10)	平均値	
	測定厚B (cm)													
	設計厚との差 B-A (cm)													

記 事： ※ 1 打設長の端面において図に示す測点。  
 ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。  
 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。  
 ただし、変形が収束しているものに限る。  
 2) 異常土圧による覆工圧不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。  
 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

吹付コンクリート出来形測定結果表

測定者 \_\_\_\_\_



測定区間	SP = _____					
地山分類	設計吹付厚A		cm	規定値範囲	設計吹付厚以上	
測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	平均値
測定厚B (cm)						
設計厚との差 B - A (cm)						
測点	(6)	(7)	平均値	(8)	(9)	(10) 平均値
測定厚B (cm)						
設計厚との差 B - A (cm)						

記事:

- ※ 施工延長10m毎また、断面変化点毎に1断面。
- ※ 良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を規定値とする。

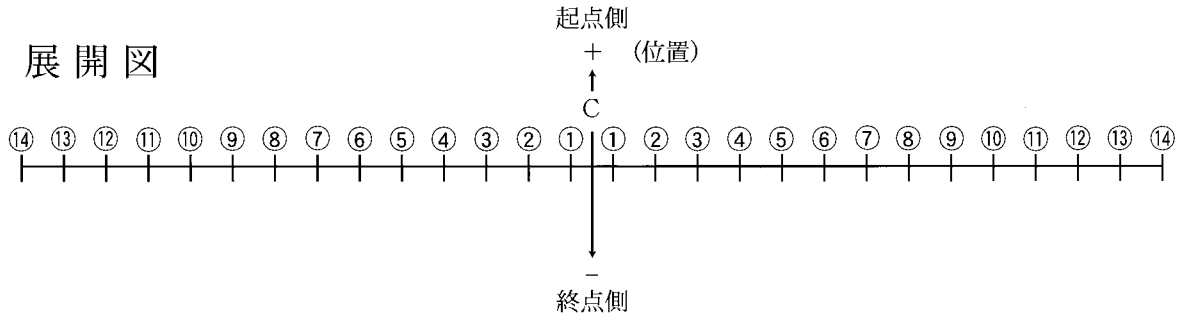
様式-66

ロックボルト出来形測定結果表 (1)

測定断面 SP =

測定者

展開図



ロックボルト位置(延長方向)		設計値	ロックボルト深さ				設計深さ		
L 側	設計位置からの変移(cm)	R 側	設計位置からの変移(cm)	L 側	測定値(m)	設計値との差(cm)	R 側	測定値(m)	設計値との差(cm)
①		①		①			①		
②		②		②			②		
③		③		③			③		
④		④		④			④		
⑤		⑤		⑤			⑤		
⑥		⑥		⑥			⑥		
⑦		⑦		⑦			⑦		
⑧		⑧		⑧			⑧		
⑨		⑨		⑨			⑨		
⑩		⑩		⑩			⑩		
⑪		⑪		⑪			⑪		
⑫		⑫		⑫			⑫		
⑬		⑬		⑬			⑬		
⑭		⑭		⑭			⑭		
平均		平均		平均			平均		

記事：

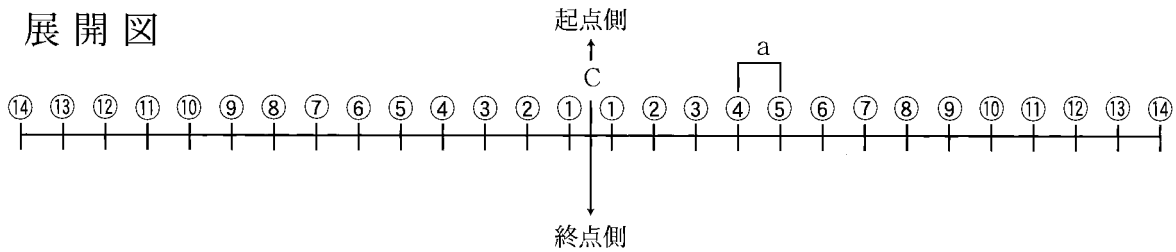
※ 施工延長40m以内につき1箇所。

様式-67

ロックボルト出来形測定結果表 (2)

測定断面 SP = \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

展開図



ロックボルト間隔 (周方向)

測 計 値 (cm)	測定箇所L側	測 定 値 (cm)	設計値との差 (cm)		測 定 値 (cm)	設計値との差 (cm)	備 考
	CL~①			CL~①			
	CL~②			CL~②			
	CL~③			CL~③			
	CL~④			CL~④			
	CL~⑤			CL~⑤			
	CL~⑥			CL~⑥			
	CL~⑦			CL~⑦			
	CL~⑧			CL~⑧			
	CL~⑨			CL~⑨			
	CL~⑩			CL~⑩			
	CL~⑪			CL~⑪			
	CL~⑫			CL~⑫			
	CL~⑬			CL~⑬			
	CL~⑭			CL~⑭			
	CL~			CL~			
	平 均			平 均			

記 事： ※ 施工延長40m以内に1箇所。  
 ※ 設計値については、以下のとおりとする。

①  $L = a/2$       ②~  $L = na + a/2$

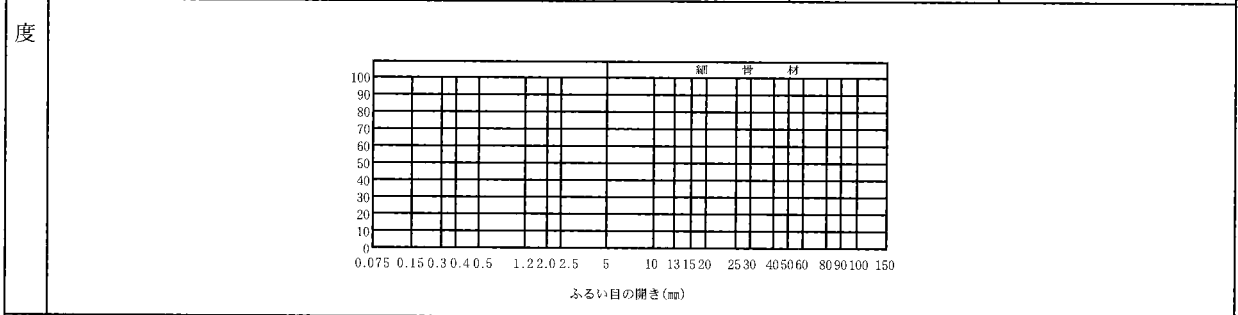


細骨材の種類

採取責任者	採取地	採取年月日	年 月 日
-------	-----	-------	-------

測定者	試験場所
-----	------

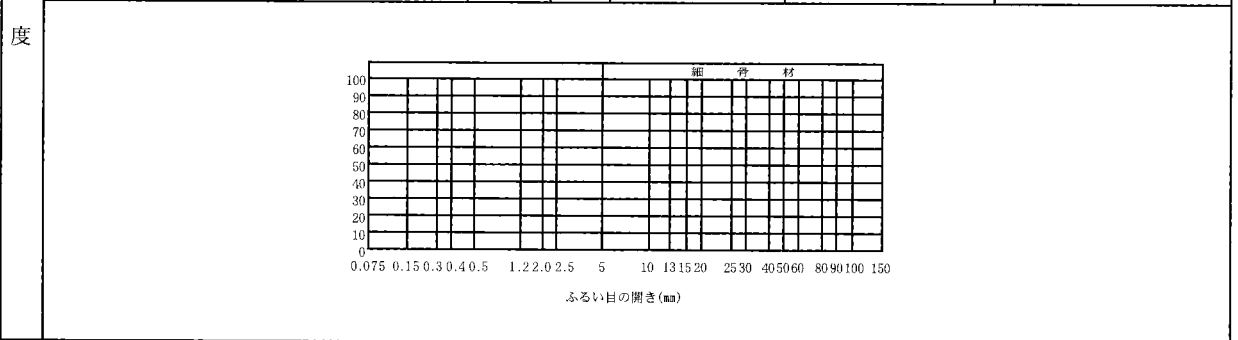
項目試験	試験方法		単位	規定値	試験値	備考
	JIS等番号	JIS等名称				
粒 ふるいの呼び寸法 mm	10	JISA-1102	骨材のふるい分け試験	%	ふるいを通るものの重量百分率	100
	5					90~100
	2.5					80~100
	1.2					50~90
	0.6					25~65
	0.3					10~35
	0.15					2~10
	—					合計
粗粒率	—	—	—	—	—	



採取責任者	採取地	採取年月日	年 月 日
-------	-----	-------	-------

測定者	試験箇所
-----	------

項目試験	試験方法		単位	規定値	試験値	備考
	JIS等番号	JIS等名称				
粒 ふるいの呼び寸法 mm	10	JISA-1102	骨材のふるい分け試験	%	ふるいを通るものの重量百分率	100
	5					90~100
	2.5					80~100
	1.2					50~90
	0.6					25~65
	0.3					10~35
	0.15					2~10
	—					合計
粗粒率	—	—	—	—		



様式-69 (トンネル工)

吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書

打設位置					材令	1日	測定者			
養成環境	時期	気温℃		湿度%		使用材料	セメント			
	供試体作成時						細骨材		(比重: )	
	引抜き試験時						粗骨材		(比重: )	
配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水・セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )				
						水	W	セメントC	細骨材S	粗骨材G
示方配合										
現場配合										
記 事:										
供試体番号		1		2		3		備 考		
上部直径 D (mm)	1	平均		平均		平均				
	2									
下部直径 W (mm)	1									
	2									
コーン高さ H (mm)	1									
	2									
コーンのせん断面積A (mm <sup>2</sup> )										
供試体破壊形状										
油圧シリンダー受圧面積a (mm <sup>2</sup> )										
引抜きせん断力PL (N/mm <sup>2</sup> )										
最大引抜き力 P=PL×a (N)										
圧縮強度の換算係数 a		4.0		4.0		4.0				
圧 縮 強 度 σ (N/mm <sup>2</sup> )										
平均圧縮強度 σ (N/mm <sup>2</sup> )										
備 考:										
※ σ <sub>1</sub> =5N/mm <sup>2</sup>										
※ 1回/40m										

様式-70 (トンネル工)

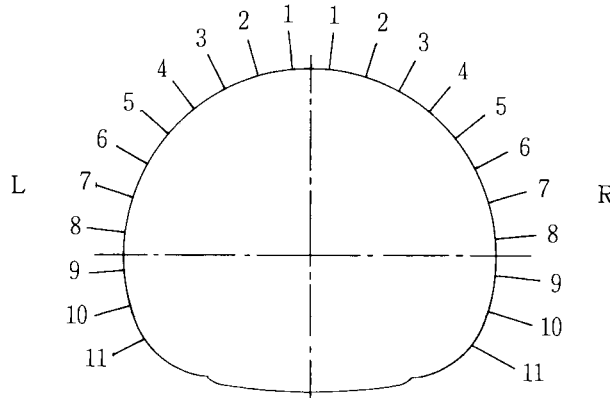
ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表

ロックボルト	ルーフボルト	規定値A：180 (+20mm)	測定者	
測点	パターン	フロー値B (mm)	規定値との差 (B-A)	備考
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				

様式-71 (トンネル工)

ロックボルト定着確認試験成績報告書

試験位置	SP=	測定者	
------	-----	-----	--



填充剤		パターン	
ロックボルト		岩質	
試験方法	A. トルクレンチ法 B. センターホールジャッキ法		

試験箇所	試験方法	引張力	試験結果	備考
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	

記事:

- ※ 試験方法はトルクレンチ法・センターホールジャッキ法のA・Bいずれかに○をつける。
- ※ 図に照らし合わせて周方向の試験箇所を記入する。
- ※ 試験結果の合否に○をつける。
- ※ トルクレンチ法：5本/40m、センタージャッキ法：2本/80m

試験盛土による盛土締固め総括表 (様式例)

様式一自1

測定	土質 種別	転圧 回数	前進第二速		総重量		履帯中心距離	
			cm	km/H	km/H	kg/cm <sup>2</sup>	kg/cm <sup>2</sup>	mm
			後進第一速		接地圧		履帯巾×接地長	
			km/H	km/H	kg/cm <sup>2</sup>	kg/cm <sup>2</sup>		
		3回	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率
		4回	%	%	%	%	%	%
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						

(注) 1. 築堤試験盛土等の様式例である。  
 2. 上表を参考にして各試験方法に応じ適切な総括表を作成すること。

## コンクリート強度試験表 (シュミットテストハンマーによる)

工 事 名

試験月日

材 令

受注者

測定者

No.	名 称	反 撓 度																			20 回 の 計	平均値	換算強度 kg/cm <sup>2</sup>	
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	14 回	15 回	16 回	17 回	18 回	19 回				20 回

### ひび割れ調査票 ( 1 )

工 事 名	
受 注 者 名	
構 造 物 名	(工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)
現 場 代 理 人 名	
主 任 技 術 者 名	
管 理 技 術 者 名	
測 定 者 名	

位 置	測定NO		
構 造 物 形 式			
構 造 物 寸 法			
竣 工 年 月 日	令和 年 月 日		
適 用 仕 様 書			
コ ン ク リ ー ト の 種 類			
コ ン ク リ ー ト の 設 計 基 準 強 度	N/mm <sup>2</sup>	コ ン ク リ ー ト の 呼 び 強 度	N/mm <sup>2</sup>
海 岸 か ら の 距 離	海上、海岸沿い、海岸から km		
周 辺 環 境	工場、住宅・商業地、農地、山地、その他( )		
周 辺 環 境	普通地、雪寒地、その他( )		
直 下 周 辺 環 境	河川・海、道路、その他( )		

構造物位置図 ( 1 / 5 0 , 0 0 0 を標準とする )

添付しない場合は  
(別添資料 - 参照) と記入し、資料提出

ひび割れ調査票 ( 2 )

構造物一般図

添付しない場合は  
(別添資料 - 参照) と記入し、  
資料提出



ひび割れ調査票 ( 3 )

ひび割れ	有, 無	本数: 1 ~ 2本, 3 ~ 5本, 多数  ひび割れ総延長 約        m  最大ひび割れ幅 (    で囲む )  0.2mm以下, 0.3mm以下,  0.4mm以下, 0.5mm以下,  0.6mm以下, 0.8mm以下,  _____ mm
		発生時期 (    で囲む )  数時間 ~ 1日, 数日, 数10日以上, 不明
		規則性: 有, 無
		形態: 網状, 表層, 貫通, 表層or貫通
		方向: 主鉄筋方向, 直角方向, 両方向,  鉄筋とは無関係
		(Empty space for additional notes)

ひび割れ調査票 ( 4 )

ひび割れ発生状況のスケッチ図

添付しない場合は  
( 別添資料 - 参照 ) と記入し、  
資料提出

ひび割れ調査票 (5)

構造物名 (工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)

ひび割れ発生箇所の写真

添付しない場合は  
(別添資料-〇参照) と記入し、  
資料提出